

Hokkaido University News

北大時報

令和元年

10

No. 787 October 2019

北海道大学ホームカミングデー 2019を開催

お知らせ

・医療費通知事業の実施





ホームカミングデー 2019



■ 全学ニュース

- 1 北海道大学ホームカミングデー 2019を開催
- 17 株式会社セコマと「災害時における応急生活物資の供給等に関する協定」を締結
- 17 北海道大学生協同組合と「災害時における相互協力に関する協定」を締結
- 18 避難所運営訓練（避難所運営ゲーム北海道版）を開催
- 19 北大フロンティア基金
- 21 北大フロンティア基金 寄附者懇談会を開催
- 21 鈴木なみえ氏に紺綬褒章が授与
- 22 Integrated Science Program (ISP) 入学式を挙行
- 23 Science Lecture 2019「その危険、観察してみる？～蚊、マダニを覗いて学ぶ感染症研究の最前線～」を開催
- 24 高等教育研修センターにて研修会を開催
- 25 令和元年度北海道大学インターンシップを実施
- 26 「北海道大学短期留学プログラム(HUSTEP)」,「日本語・日本文化研修コース(日研コース)」及び「日本語研修コース」入学式を挙行
- 27 第7回アフリカ開発会議(TICAD7) サイドイベントへ参加
- 28 第2回日露大学協会総会に参加
- 29 日本留学海外拠点連携推進事業主催日本留学フェア（於ロシア連邦・モスクワ）を開催
- 30 ケニアの首都ナイロビで「日本留学フェア」を開催
- 31 令和元年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催
- 32 「生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭」を挙行
- 32 「函館地区キャンパスマスタープラン策定に向けた意見交換会」を開催

■ 部局ニュース

- 33 北海道大学学芸員リカレント教育プログラム（学芸員カブロ）公開イベント「文化拠点とまちづくり」を開催
- 34 教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2019（夏季北大プログラム）を開催
- 35 法学研究科FD研修を開催
- 36 経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターセミナーを開催
- 37 先端生命科学研究科FD研修「大学評価におけるTOP10%論文の重要性」を実施
- 37 医学部・歯学部合同慰霊式を挙行
- 38 薬学研究院・薬学部・生命科学学院が国立陽明大学薬物科学院（台湾）と部局間交流協定を締結
- 39 薬学研究院が「The 5th Japan-Taiwan Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences」を共催

- 39 令和元年度 地球環境科学研究所 公開講座『生物の「変化」：理由、メカニズム、そして影響』が終了
- 40 物質科学リーディングプログラム 新プログラム生8名を採用
- 41 国際食資源学院と農学研究院がミャンマー・パテイン大学とInternational Joint Symposiumを開催
- 42 水産科学研究院が標津町及び標津サーモン科学館と連携協定を締結
- 42 水産科学研究院で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」「これが意外とムズカシイ！海岸動物（ヤドカリ、巻貝、クラゲ）の社会関係」を開催
- 43 令和元年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス！」が終了
- 44 北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催
- 45 北海道大学病院で災害医療訓練を実施
- 46 バスケットボール部関係資料を大学図書館で受贈

■ お知らせ

- 47 医療費通知事業の実施

■ 博士学位記授与 48

■ レクリエーション

- 57 学内教職員卓球大会の開催 ー団体戦ー
- 58 教職員テニス大会の開催

■ 諸会議の開催状況 59

■ 学内規程 60

■ 研修

- 63 令和元年度北海道地区国立大学法人等中堅技術職員研修

■ 表敬訪問 64

■ 人事 65

- 65 部局長等（再任）紹介
- 66 新任部局長等紹介
- 66 新任教授紹介

■ 訃報

- 68 名誉教授 岡島 秀夫 氏



株式会社セコマと「災害時における応急生活物資の供給等に関する協定」を締結



モスクワで開催した日本留学フェア個別相談会

薬学研究院
ジョイントシンポジウム参加者北方生物圏フィールド科学センター
忍路湾での海藻採集

表紙：ホームカミングデー 2019（関連記事1～16頁に掲載）

裏表紙：北の鉄道風景⑨ 秋の夕日に照るクルーズトレイン

■ 全学ニュース

北海道大学ホームカミングデー2019を開催

9月27日（金）から29日（日）の3日間、「Be ambitious again!」をモットーに、「北海道大学ホームカミングデー2019」を開催しました。8回目の開催となる今年のホームカミングデーは天候にも恵まれ、秋の爽やかな風を感じられるなか、同窓生や在学生の保護者など多くの参加者が札幌キャンパスに集いました。

全学行事のほか、部局・同窓会が主催する様々な行事が行われ、参加者は旧交を温めたり、現役の学生と世代を超えた交流を持つなど、エルムの森で楽しいひとときを過ごしました。

なお、次回、第9回のホームカミングデーは、令和2年9月25日（金）～27日（日）の3日間の開催を予定しています。

（総務企画部広報課）

全学行事

総務企画部広報課

歓迎式典・記念講演会

9月28日（土）10:00～11:45 学術交流会館講堂 参加者約170名

ホームカミングデーの全学行事として「歓迎式典・記念講演会」を行いました。

会場となったクラーク会館講堂が多くの同窓生や関係者で埋まるなか、北海道大学交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」「永遠の幸」の演奏で式典は幕を開けました。

司会は本学経済学部卒業生である北海道放送株式会社（HBC）の船越ゆかりさんが務め、最初に笠原正典理事・副学長（総括・同窓生担当）から「北海道大学143年の歩みと今」と題してこれまでの歩みや現在の取組について報告があり、「2026年の創基150年を見据え、同窓生をはじめとするすべての関係者と力を合わせてさらに邁進していきたい」とのメッセージを伝えました。次に、杉江和男北海道大学校友会エルム会長が歓迎の挨拶として、

国立大学を取り巻く環境とともに、校友会エルムの果たす役割や意義について話されました。

続いて、全く新しい光化学反応を用いたがん細胞の殺傷に係る論文を発表するなど、今世界から注目されている薬学研究院の小川美香子教授が「病気を見つける薬から治す薬へ」と題して講演を行い、分かりやすく研究内容を説明しました。

その後、「学生による活動報告」と

題し、新渡戸カレッジ生、新渡戸スクール修了生、北大キャンパスビジットプロジェクト及び相撲部の4名による活動報告がありました。

そして、歓迎のステージでは、北海道大学合唱団が「宇宙戦艦ヤマト」「I've Been Working on the Railroad」「見上げてごらん夜の星を」「Ride the Chariot」の4曲を披露し、会場に重厚な歌声を響かせました。

ステージの締めくくりは、「都ぞ弥



交響楽団による演奏



本学の歩みについて報告する笠原理事・副学長



歓迎の挨拶を述べる杉江会長



講演する小川教授



活動報告を行う4名の学生

生」の斉唱です。斉唱時には恵迪寮同窓会の呼びかけで役員等もステージに上がり、客席の方々は席を立ち隣の方と肩を組み、会場が一体となりフィナーレを迎えました。参加者の皆様には本学の“今”を体感していただけたことと思います。



合唱団による歓迎のステージ



「都ぞ弥生」の斉唱

部局・同窓会主催行事

文学部・教育学部・法学部・経済学部（各同窓会）

文学部・教育学部・法学部・経済学部合同企画 公開講演会，同窓会総会，懇親会

9月28日（土）14:00～19:00 人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）103ほか 参加者97名

文系4部局合同企画として、公開講演会「北海道観光の新たな可能性～アドベンチャー・トラベルとは？」を実施しました。長谷川晃理事・副学長の挨拶の後、同窓生、教職員、学生、市民を対象とした公開シンポジウム（パネルディスカッション）形式で行いました。

パネリスト

かとうけいこ氏（株式会社まちづくり観光デザインセンター CEO）

渡辺敏哉氏（まるぜん観光株式会社代表取締役）

司会

平本健太（経済学研究院長）

公開講演会終了後は、文学部・教育学部・法学部・経済学部の各同窓会が総会を開催し、活動計画、決算・予算、広報活動等について検討し、同窓会活動についての意見交換を行いました。



た。

次いで、文系4部局の同窓生が合同で公開シンポジウムの懇親会を開催しました。



理学院・理学研究院・理学部，生命科学院・先端生命科学研究院

理学部ホームカミングデー 理学部企画，同窓会総会，学科訪問，北海道大学ライフサイエンスフォーラム2019，理学部&同窓会交流会

9月28日（土）11:30～18:30 理学部2号館玄関ロビー他 参加者74名

8回目となる理学部ホームカミングデーは、今年も理学部同窓会総会をこの日にあわせて開催しました。

最初に、2号館玄関ロビーを会場に、理学部の近況報告を行いました。堀口健雄理学研究院長・理学部長，加藤敦之同窓会理事長の歓迎挨拶の後，堀口研究院長が理学研究院・理学部をめぐる最近のトピックスに関して報告

しました。次いで、同窓会からの奨学金により国際学会等において研究発表を行った大学院生2名が、旅行中のエピソードを交えて発表を行い、同窓生の方々は聞き入っていました。

その後、同窓会総会を本館大会議室で開催し、議案に対する審議を行いました。例年どおり多くの同窓生に出席いただき、同窓会の運営に関して熱心

な質問や意見交換がなされました。

総会終了後は、各学科による研究室見学及び研究成果発表，現役学生・教員との懇談会に参加し交流を深めました。

その後、教職員と同窓生は総合博物館ラウンジに移動し、理学部&同窓会交流会に参加しました。堀口研究院長の挨拶・乾杯で交流会が幕を開け、立

食形式による1時間ほどの会でしたが、和やかな雰囲気が進み、歓談の合間には現職教員が各学科の近況を報告



堀口研究院長の近況報告

し、また、同窓生からは理学部を応援するお言葉をいただき、加藤同窓会理事長の閉会挨拶・乾杯で盛会のうちに



同窓会奨学生の発表

終了しました。



同窓会総会の様子

医学研究院・医学部

北海道大学医学部ホームカミングデー フラテ祭2019

9月28日（土）13:00～17:30 医学部学友会館「フラテ」 参加者101名

医学部では、第1部として現役医学部生による活動発表と施設・キャンパスツアーを行いました。ツアーでは、助教がツアーコンダクターとなり、参加者をご案内しました。施設巡りでは、新設したばかりの医学部百年記念館のほか、クリニカルシミュレーションセンター・法医学解剖室・北大病院陽子線治療センター・北大病院検査・輸血部・遺伝子病制御研究所を見学し、日常では見ることのない装置に触れる等、様々な体験をしていただきました。また、キャンパス巡りでは、学

生団体HCVP（北大キャンパスビジットプロジェクト）の協力のもとバスで大学構内を移動し、参加者は生物生産研究農場・ポプラ並木・クラーク像等で途中下車をして楽しんでいました。

第2部の講演会・音羽博次奨学基金授与式では、浅香正博同窓会長のご挨拶により開幕し、12名の学生に奨学金が授与されました。また、吉岡充弘医学部長、秋田弘俊北海道大学病院長が講演を行った後、引き続き、方波見謙一北海道大学病院救急科助教から「北海道大学病院における災害対応」と題

した特別講演を行いました。最後に、医学部公認団体アンサンブル・フラテによる「学友会歌」「都ぞ弥生」が披露され、盛会のうちに終了しました。

同窓生・学生親族・医学部生・教員が一堂に会し、和やかな雰囲気のなか親睦を深めていました。参加者からは「学生の活動発表が素晴らしかった」「ツアーも学生の様子がわかる内容で良かった」「また参加したい」等数多くの感想が寄せられました。



現役医学部生による活動発表の様子



医学部百年記念館の見学の様子



方波見助教による特別講演

北楡会・北海道大学情報系交流会（母校交流会）

9月27日（金）13:30～17:45 情報科学研究院棟A21教室 参加者39名

情報科学院の前身となる情報科学研究科並びに電気・電子・情報・生体工学系の各専攻・学科の同窓生で組織される北楡会と、情報科学院の学生・教員との交流会を情報科学研究院棟A21教室にて実施しました。プログラムは右のとおりです。

北楡会会長ならびに学院長からの挨拶に続けて、本年度より情報科学研究院／情報科学院へ改組した新組織・教育体制、及び、国際連携・異分野共同研究を通じての教育研究活動の状況について紹介しました。

北楡会より、当該研究科で博士後期課程を修了したNTTネットワークサー

ビスシステム研究所の宮村崇主幹研究員によるAI技術の応用に関する講演と在学生へのメッセージもありました。

講演に続き、各コースの研究室及び研究紹介の在学生によるポスタープレゼンテーションがあり、同窓生との活発な交流が行われました。その後、各コースの研究室見学を実施し、最新の研究活動の成果を紹介しました。意見交換会では同窓生と学院との連携強化、学生のキャリア支援について活発な議論が行われ、来年度の実施についての意見交換を行いました。

【プログラム】

- ・開会挨拶 北楡会会長 伊藤明男
- ・『情報科学研究院 情報科学院～新組織体制について～』
情報科学院副学院長 末岡和久
- ・『情報科学研究院における国際連携研究と異分野協同研究』
情報理工学部門 教授 吉岡真治
- ・『AI技術を使ったネットワークライフ管理』
NTTネットワークサービスシステム研究所主幹研究員 宮村 崇
- ・ポスター展示（2階ラウンジ）情報科学研究院各研究室
- ・研究室見学 情報科学研究院研究室
- ・意見交換会



ポスター展示の様子



研究室見学



講演（吉岡教授）

薬学研究院・薬学部

薬学部生涯教育特別講座秋季講演会，薬学部同窓会総会，交流会

薬学部生涯教育特別講座秋季講演会

9月28日（土）14:00～16:00 薬学部臨床薬学講義室 参加者93名

薬学部生涯教育特別講座は、本学薬学部同窓生を含む医療関係及び関連領域の仕事に従事される方を対象に、医療における諸問題について最新の情報を提供することを目的として実施されています。

2019年9月28日（土），薬学部臨床薬学講義室において生涯教育特別講座・秋季講演会を開催し，薬局や病院などの薬剤師の方々をはじめ，薬学部学生や教員，同窓生等93名が参加しました。

はじめに北海道大学病院薬剤部 菊谷由里香先生による「病院薬剤師の卒後教育－レジデント修了生の立場から－」の講演があり，薬剤師レジデント制度の概要から実際の研修内容，レジデント修了後の現在の活動について，実体験を経た修了生の立場からわかりやすく解説いただきました。続いて札幌医科大学附属病院薬剤部 稲村広敏先生に「救急・災害医療における薬剤師のかかわり－現在の立ち位置から卒後の薬剤師経験を振り返る－」の

タイトルで，救命救急領域そして災害医療における薬剤師業務について，ご自身の経験した実例を交えながらご講演いただきました。会場からも質問が寄せられ，活発な議論が行われました。「薬剤師の役割について考える良い機会となりました」「それぞれの体験を聞いて，自分は今後どうあるべきか考えるきっかけになりました」など数多くの感想が寄せられました。



北海道大学病院薬剤部 菊谷由里香先生



札幌医科大学附属病院薬剤部 稲村広敏先生



講演会の様子

薬学部同窓会総会，交流会

9月28日（土）16:00～19:00 多目的講義室 参加者33名

薬学部では，ホームカミングデー2019の開催にあわせて，薬学部同窓会総会と交流会を行いました。薬学部同窓会総会には，同窓生を含む33名の方に参加頂き，薬学部の施設見学を行な

うとともに，三浦敏明同窓会会長から同窓会の運営状況に関して，佐藤美洋薬学部長から現在の薬学部の状況について報告しました。その後，参加者による交流会を行い，盛況のうちに本会

を終了することができました。ホームカミングデーにあわせた同窓会の企画は，本年度が初めてでしたが，参加者からも良好な評価をいただきました。



施設見学の様子



三浦同窓会会長の講演



交流会の様子

工学院・工学研究院・工学部

工学研究院イノベーションフォーラム2019，北工会サークル展示，同窓生向け講演会，同窓生との懇親会

北海道大学大学院工学研究院イノベーションフォーラム2019

9月27日（金）13:30～16:30 工学研究院アカデミックラウンジ1，2 参加者81名

本フォーラムは，地域連携や社会連携に向けた研究を支援することを目的として，工学系連携推進企画部が中心となり工学研究院の主催事業として実施しました。

開会の挨拶の後，ポスター発表の部として，工学研究院アカデミックラウンジ2において工学研究院の最近の代表的研究成果等について，23課題のポスター発表を実施しました。

次いで講演の部として，イノベーションに関連した講演を同アカデミックラウンジ1で2題実施しました。

最初に，工学研究院ロバスト農林水産工学国際連携研究教育拠点 田熊秀行特任教授から「異分野連携と研究費獲得」と題した講演を行いました。

続いて，理学研究院地球惑星科学部門宇宙惑星科学分野 高橋幸弘教授から「北大の超小型衛星が拓く宇宙情報

革命」と題した講演を行いました。

なお，ポスター発表のうち21課題については，工学系連携推進企画部ホームページで工学系研究者シーズ集Vol.17として公開していますので，ぜひご覧願います。

<http://labs.eng.hokudai.ac.jp/office/elo/seeds/seeds017.pdf>



ポスター発表の様子



工学研究院田熊秀行特任教授による講演の様子



理学研究院高橋幸弘教授による講演の様子

北工会サークル展示

9月28日（土）9:00～17:00 工学部正面玄関ホール

工学部正面玄関において，北工会（工学部の教職員・学生等の親睦団体）の公認サークルによる作品（書

道，写真）を展示しました。ホームカミングデー来場者のほか，在学生や外部からの来訪者の方々も，足を止めて

作品に見入っていました。

同窓生向け講演会

9月28日（土）15:00～17:00 工学部アカデミックラウンジ1 参加者36名

工学部アカデミックラウンジ1において，工学部の同窓生に向けた講演会を行いました。

はじめに，瀬戸口剛工学研究院長・工学院院长・工学部長が歓迎の挨拶を述べた後，工学研究院及び工学部の現況報告を行いました。

伊藤猷一北海道大学名誉教授から

「挑戦 北海道から宇宙へ」，近久武美北海道職業能力開発大学校長から「新しいエネルギー社会への挑戦：エネルギー・経済・雇用について考える」と題した講演を行いました。参加者は熱心に講演に聞き入り，大変好評でした。



同窓生向け講演会の様子

同窓生との全体懇親会

9月28日（土）17:00～18:15 工学部アカデミックラウンジ2 参加者36名

工学部アカデミックラウンジ2において、工学部の同窓生をお迎えし、懇親会を開催しました。

懇親会は、瀬戸口剛工学研究院長・工学院院长・工学部長から開会の挨拶があり、三上 隆氏（元理事・副学長、元工学研究科長）の乾杯の挨拶の後、歓談を行いました。

同窓生同士の親睦を深めるとともに、現任教員・学生とも熱心にお話をされており、短い時間ではありましたが、和やかな雰囲気の中、交流を深めていました。

最後に、幅崎浩樹工学研究院副研究院長から閉会の挨拶を行い、盛会のうちに終了しました。



同窓生との懇親会の様子

農学院・農学研究院・農学部

市民公開・農学特別講演会「農と食が創る持続的な社会」、農業経済学科100周年記念シンポジウム「北大農経の100年—回顧と展望—」

市民公開・農学特別講演会「農と食が創る持続的な社会」

9月27日（金）13:00～14:50 農学部4階大講堂 参加者87名

本特別講演会は、明治31年発足の札幌農林学会が開催してきた学術講演会の中の特別講演会を継承・発展させてきたものであり121年の歴史があります。平成9年以来、市民公開・農学特別講演会として、広く一般市民の方々に公開しています。本年も、農学院・農学研究院・農学部、札幌農林学会、及び札幌農学同窓会による主催、北方生物圏フィールド科学センター共催で開催しました。

西邑研究院長による開会挨拶の後、

農学研究院の伴戸久徳教授から「いまさらカイコ?!—カイコの恵み—」と題する講演がありました。養蚕の歴史的な背景の説明の後、絹糸だけではなく最新のカイコ利用についてご自身の研究成果を混じえながら詳しい解説をいただきました。カイコと人間との関わりが新たな局面に入ることを予感させる講演でした。

続いて、農学研究院の坂下明彦特任教授から「土地を「囲い込む」こと—農耕と牧畜のせめぎあい—」と題する

講演を行いました。北海道を飛び出したスケールの大きな考察で、名著の紹介から既存の学説に対する疑問の提起まで好奇心を刺激する内容でした。防御としての柵を農業と牧畜の関係から見直す意義を強調された講演でした。

当日は同窓生以外にも一般市民の皆様にも多数御参集いただき、フロアからの質問も出るなど、大変盛会となりました。



伴戸教授の講演



坂下特任教授の講演



市民公開・農学特別講演会全体の様子

農業経済学科100周年記念シンポジウム「北大農経の100年－回顧と展望－」

9月28日（土）13:00～17:00 農学部4階大講堂 参加者135名

本シンポジウムは、2019年9月に農業経済学科創設100周年を迎えることを記念して、「北大農経の100年－回顧と展望－」をテーマに農業経済学科教職員の主催で開催しました。

冒頭、柳村俊介教授（北海道大学）の司会のもと、農業経済学科長の近藤巧教授（北海道大学）による開会挨拶を経て、農業経済学科にゆかりのある方々に講演いただきました。まず三島徳三名誉教授（北海道大学）から「新渡戸稲造『農業本論』の周辺」、続いて草薙 仁教授（神戸大学）から「院

生気質の比較分析」の講演を行いました。

休憩を挟み、佐久間亨専務理事（北海道農業会議）から「人・農地対策と北大農経」、河渕将人主幹（JA北海道中央会）から「学生生活を振り返って」、小林国之准教授（北海道大学）から「農経の今と教育・研究のこれから」、小松知未講師（北海道大学）から「農業経済研究者としての実践と人材育成」の講演を実施しました。講演後には、参加者から質問、コメントをいただきました。最後に主催者から、

農業経済学科の教育・研究の基盤となってきた多くの方々との関わりやご支援に対する感謝を述べ、閉会しました。

北海道大学校友会エルム及び札幌農学同窓会にも広報・宣伝のご協力をいただき、道外や海外からも含め135名の参加がありました。シンポジウム後に開催された祝賀会は西邑隆徳農学部長の挨拶と乾杯で開始、80名以上が参加し、盛会裏に関連行事を終えました。



近藤学科長



三島名誉教授



会場の様子

獣医学院・獣医学研究院・獣医学部

獣医学部同窓会令和元年度評議員会、通常総会、新評議員会・新理事会、フォーラム・交流会、懇親会

9月28日（土）11:00～18:30 獣医学部講義棟会議室・講堂 参加者60名

獣医学部同窓会評議員会を行い、続いて令和元年度獣医学部同窓会通常総会を獣医学部講義棟（講堂）で開催しました。総会に先立ち、逝去会員に対して黙とうを捧げました。堀内基広会長（昭61年卒）の挨拶に引き続き、議長に森千恵子氏（昭54年卒）、副議長に安井博宣氏（平16年卒）、議事録署名人に戸田知得氏（平18年卒）が指名

され、各議案が審議されました。

通常総会に引き続き開催された新評議員会において、新理事が選出され、その後、新理事会が開催されました。講義棟前にて記念撮影を行った後、14時30分より講堂で第10回北海道大学獣医学部同窓会フォーラムを開催しました。今年は「新時代令和を迎えて－変わりゆく北大獣医学部－」と題し、現

在、獣医学研究院・獣医学部で行われている教育・研究活動を教員と学生の立場からそれぞれ紹介するとともに、学外ステークホルダーとして共同獣医学課程の運営に参画いただいているOBからも提言をいただきました。

その後、会議室にて懇親会を行い、同窓会員同士や同窓会員と現役学生の間で親睦を深めました。



同窓会員による総会後の集合写真



フォーラムでの現役学生の講演



現役学生とOBが親睦を深めた交流会

水産科学院・水産科学研究院・水産学部、北水同窓会

水産学部卒業生・在校生のつどい～講演会，懇親会～

9月28日（土）14:00～17:45 学術交流会館第1会議室，クラーク会館2階「クラーク食堂」

参加者114名

水産学部では、本学部卒業生の長沼昭夫氏（株式会社きのとや代表取締役会長）による講演会を行いました。

講演に先立ち、北水同窓会の岸村栄毅副幹事長による開会の挨拶に始まり、木村暢夫学部長から函館キャンパスにおける近況報告、北水同窓会の横山清会長の挨拶を行いました。

その後、長沼氏に「夢多き人生」に

ついて講演いただきました。「きのとや」を創業するまでに経験された農業や飲食店店長時代、正社員として勤めたスーパーの青果部門でのお話や「きのとや」での様々なエピソード、今後の夢など、大変興味深い内容の講演となりました。講演後も時間の許す限り、参加した学生たちと熱心にお話している姿は印象的でした。

講演会終了後は、クラーク会館2階の「クラーク食堂」に会場を移し、懇親会が執り行われました。当日は、講演会と懇親会をあわせ、同窓生、教職員、学生など約110名の方々にご参加を頂き、和やかな雰囲気の中盛況のうちに閉会となりました。



水産学部講演会 木村学部長挨拶



水産学部講演会 講演する長沼昭夫氏



水産学部懇親会

環境科学院・環境科学同窓会

松野環境科学賞授賞式・修了生による講演会，コース・研究室紹介パネル展示，懇親会

9月27日（金）9:00～20:00 環境科学院D201講義室，環境科学院エントランスホール，レストラン・エルム 参加者123名

環境科学院ホームカミングデーは、今年も松野環境科学賞授賞式で始まりました。4名の受賞者が集い、拍手の中、賞を受け取りました。受賞者の友人も多く授賞式に参列していたようで、授賞式後に受賞者と友人や指導教員等それぞれが集まって記念撮影をしていました。

恒例の修了生による講演会では、学生の立場では見えにくい社会に出てか

らの活動や、当時の就職活動をもとに、在学生へのアドバイスをいただきました。今年は、4名の講演者から、就職活動時の気づきや、やってよかったこと、加えて、現職での活躍、様々な部署でのご経験や仕事内容などを講演いただきました。就職活動を控える、または最中の学生にとって良いヒントを得る機会となりました。今年は

例年より多くの学生が聴講し、先輩方の話にメモを取りながら聞き入っていました。

講演会後は場所を移し、レストランエルムにて懇親会を催しました。大原雅学院長の挨拶と乾杯で始まり、学生や修了生、教職員が和やかな雰囲気の中、話をはずませていました。



松野環境科学賞受賞者と大原研究院長



講演会の様子



懇親会の様子

ホームカミングデー@IMCTS 修了生meet在學生2019

9月28日（土）13:30～20:00 メディア棟608室・407室 参加者39名

国際広報メディア・観光学院ホームカミングデーの中心的行事である、修了生・在學生を交えたワークショップにおいては、企画名称を「「選挙に出たい」で語りたい！—修了生制作映画大討論会」と題し、学院修了生である邢菲（ケイヒ）氏が制作した映画「選挙に出たい」をめぐって、討論を行いました。

まず冒頭で、制作会社のご厚意のもとに映画を鑑賞した後、制作に至る背景や制作意図に関して邢菲監督ご自身からミニ講演をいただき、その後2名の教員が加えたコメントをきっかけとして討論を行いました。新宿歌舞伎町の「案内人」であった中国人が、日本国籍を取得して都議会議員選挙に出馬する顛末を追った秀逸なドキュメンタリーの内容や描写の面白さに促され、

30名を超える修了生、在學生、教員等の参加者の間で、多様な論点から極めて活発かつ充実した議論が展開され、予定していた1時間半の討論時間では足りないほどでした。

その後、会場を移して定例の学院同窓会総会が開催され、金 永勲会長、前田弘志副会長による司会、議事進行のもと、すべての議案が滞りなく承認

されました。

これに引き続いて懇親会を開催し、40名ほどの参加者を得て、和やかな雰囲気うちに、修了生の活躍ぶりや、学院の教育研究の現状といった話題に花を咲かせました。盛会のうちに終了予定時間を迎え、参加者の健康とまたの再会を願って、終わりを惜しみつつ懇親の場を終了しました。



ワークショップの様子



懇親会の様子

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科

保健科学研究院ホームカミングデー 分野紹介・講演会

9月28日（土）13:30～16:00 保健科学研究院大会議室（C棟6階） 参加者30名

保健科学院・保健科学研究院・医学部保健学科では、保健科学研究院ホームカミングデー（分野紹介・講演会）と題し、本研究院の各分野から、最近の教育研究の諸活動などについて近況の報告、及び卒業生の方々に講師としてお迎えし、これまでの歩み、現在の活動状況などをお話いただきました。齋藤 健研究院長からの開催の挨拶

に始まり、分野紹介では、各分野から構成等及び最近の教育研究について紹介しました。講演会では、大浦大輔氏（小樽市立病院放射線室主査）に、「臨床における技術の“活かし方”と“活かされ方”」と題し、臨床の視点から技術の洗練、周囲との連携についてお話いただきました。続いて、小野誠司氏（北海道医療大学助教）に、

「仕事から学んできたこと～患者様との検査を通して」と題し、脳神経外科での検査業務を通じ学んだ、検査の質を高める上での人との協働の大切さについてお話いただきました。

また、講演後には、質疑応答が行われるなど大変好評でした。



齋藤研究院長からの挨拶



大浦氏による講演の様子



小野氏による講演の様子

附属図書館

古本募金強化週間

9月20日（金）～10月4日（金） 附属図書館本館玄関ロビー、北図書館1階ロビー

附属図書館では、ホームカミングデーに合わせて「古本募金強化週間」を開催しました。

古本募金とは、不要になった本を提供していただき、リサイクルした収益を学生用図書の購入をはじめとする附

属図書館の教育・研究支援に充てるという事業です。

これは、日ごろ図書館を利用いただく方の不要な図書の整理に資するとともに、本学在学学生への支援につなげることができる事業となっています。

強化週間中は、特別に買取価格を50%アップしております。期間中、多くの古本をご提供いただきましたので、この収益は有効に活用させていただきます。

北方生物圏フィールド科学センター

植物園の縦覧見学、「北大農場」ミニツアー

9月28日（土） 植物園の縦覧見学 9:00～16:30 「北大農場」ミニツアー 14:30～15:30
北方生物圏フィールド科学センター植物園、北方生物圏フィールド科学センター生物生産研究農場 参加者99名

秋晴れに恵まれた中、植物園の縦覧見学には、本学同窓会団体「校友会エルム」の31名をはじめ、本企画を機に道内外から来園された卒業生等、幅広い年代にわたる参加者15名の計46名が、富士田裕子園長案内のもと、園内の各所を見学し植物とのふれあいを楽しめました。

また、生物生産研究農場の見学には、植物園の見学を終えた「校友会エルム」の方々、医学部関係者の団体「医学部フラテ祭」から19名と一般者3名の計53名の方々が参加され、山田敏彦農場長の案内で、センター屋上から札幌市の中心部に位置する農場の雄大な景色を眺め、ビル群に囲まれた街

中に広がる農地に感動の声を上げていました。

参加者はその後、ポプラ並木、放牧地及びススキ試験圃場を見学し、普段は目にしない農作物が作られる現場で、植物生産の苦勞を感じとっていました。



富士田園長の説明で植物園を見学する参加者



フィールド科学センター管理棟屋上から農場を眺める参加者



ポプラ並木で農場内施設等の説明を聞く参加者

総合博物館

北大ミュージアムクラブMouseionによる展示解説

9月28日（土）①10:30～10:50 ②11:00～11:20 ③13:00～13:20 ①3階 考古遺物の世界展示室 ②③2階・農学部展示室 参加者12名

昨年に引き続き，“博物館を楽しむ”をモットーに北大生が提案・企画・運営している北大ミュージアムクラブMouseionが、展示解説を行いました。学生が解説シナリオを作成して教員の監修を受け、クラブのメンバーと

ともにビデオレッスン等の展示解説のリハーサルを重ねて挑みました。

当日は、運営者も来館者との会話を楽しみ、高校生の来館者には大学の研究について興味を持っていただいたり、展示内容について来館者と1時間

程度の議論を行うなど、大変有意義な時間となりました。

卒業生を含めた参加者から、大変ご好評をいただきました。



恐竜にビックリの参加者



大学の歴史を説明する湯浅教授



北海道クイズに挑戦する参加者

大学文書館

特別展示「北大生の御用達!——新聞広告あれこれ1926-1945」、特別展示「“北大紛争”からの50年（1）——“北大紛争”とは」、企画展示「北大における女性自学から男女共学へ——新制大学70年」、常設展示「北大生の群像」・「札幌農学校遊戯会」・「新渡戸稲造と遠友夜学校」

9月27日（金）～9月29日（日）9:30～16:30 大学文書館1階 会議室・閲覧室前・沿革展示室・展示ホール 参加者62名

大学文書館では、9月27日～9月29日にわたり、当日限定として、「北大生の御用達!——新聞広告あれこれ1926-1945」（会場：会議室）と「“北大紛争”からの50年（1）——“北大紛争”とは」（会場：閲覧室前）との特別展示を開催しました。また、平日

開館時に公開している企画展示「北大における女性自学から男女共学へ——新制大学70年」（会場：沿革展示室）と、常設展示「北大生の群像」・「札幌農学校遊戯会」・「新渡戸稲造と遠友夜学校」（会場：展示ホール）も、あわせて公開しました。期間中、在学生・

同窓生等の皆様62名に見学いただきました。

特別展示「北大生の御用達!」には、北大生・教職員に愛された、正門前の2つのお店「中屋菓子舗」、「澤田商店」の方々にもお越しいただきました。



特別展示「“北大紛争”からの50年（1）」



常設展示



特別展示「北大生の御用達!」

アドミッションセンター・北大キャンパスビジットプロジェクト

キャンパスツアー ―現役北大生とめぐるキャンパス今昔―

9月28日（土）13:00～14:30 札幌キャンパス構内 参加者14名

出発地点を全体行事の会場となったクラーク会館、最終到着地点を高等教育推進機構としたキャンパスツアーを実施しました。当日は14名の参加があり、参加者の出身学部に応じて班分けを行い、コースには参加者の要望も取り入れました。

ツアーは、スタッフである現役の学生がコース中の学部や施設の現在の様子などを紹介し、参加者に当時の構内や学生生活の様子について伺うという形で進行了しました。

参加者からは、学生時代を懐かしむ

声や、当時とは違った構内の様子に驚きや感動の声が挙がっていました。現在の本学について参加者からの質問に答えながらも、スタッフ自身も当時の本学の姿、歴史について参加者から学ぶことができ、現役の学生と同窓生が交流を深め、共に新たな本学の一面を知る貴重な機会となりました。

ツアー参加者の方々からは、「ガイドの生の体験を聞いたことがとても良かった。」「自分とは違う出身学部の体験を聞いてよかった。」「コミュニケーションをとりながらツアーを進めてく

ださったので楽しく参加できました。」などの感想が寄せられました。

北大キャンパスビジットプロジェクトでは、年に数回、一般市民向けのキャンパスツアーを行っており、今秋にもキャンパスツアーを実施する予定です。今回、ご参加いただいた方々から伺うことができました本学の過去の様子なども参考にし、これからのキャンパスツアーをより良いものにしていきたいと思います。



現在のキャンパスを紹介する様子



現役生と同窓生がキャンパスを散策する様子



北海道大学校友会エルム

OB・OG講演会及び在学生との懇談会、保護者会員懇談会・キャンパスツアー

OB・OG講演会及び在学生との懇談会

9月27日（金） 学術交流会館第1会議室 参加者38名

学術交流会館第1会議室において、「OB・OG講演会及び卒業生と在学生との懇談会」を開催しました。

OB・OG講演会では、在学生に向けて、各業界で活躍する5名の先輩達、株式会社ニトリホールディングス 中野谷圭祐氏（理学部2011年卒）、北海道庁 大森美香氏（法学部2005年卒）、札幌市役所 坪松耕太氏（獣医学部2008年卒）、北海道電力株式会社 松井達也氏（法学部2009年卒）、株式会社北洋銀行 千葉史也氏（経済学部2009年卒）に講演いただきました。

講演では、どうしてその企業・官庁を志望したのか、現在どのような業務を行っているのか、学生時代にどのよ

うな活動を行っていたのか等、学生目線で語られ、開催趣旨に沿った内容となりました。

また、終了後の懇談会においては、幅広い年代層の卒業生にも参加いただき、企業等における実際の業務の様子など、活発な懇談が行われ、参加され

た在学生からも有意義な機会だったとの声が寄せられました。

当日、ご参加いただきました卒業生のほか、連絡調整をいただきました各基礎同窓会の皆様にも厚く御礼申し上げます。



OB講演会の様子



在学生との懇談会

保護者会員懇談会・キャンパスツアー

9月28日（土） 13:30～15:00 ファカルティハウス「エンレイソウ」・札幌キャンパス全体 参加者35名

校友会エルム保護者会員を対象に「懇談会及びキャンパスツアー」を実施しました。

懇談会では、保護者会員に対して、校友会エルム設立の趣旨や、今後校友会エルムが実施する事業等の説明を行った後、ファカルティハウスエンレイソウ内の「レストランエルム」において、校友会エルムの役員も交え、料理を堪能しながら懇談いただきました。

引き続き、借り上げバスによるキャンパスツアーを行い、最初に伺った植

物園では、富士田裕子園長から植物園の歴史と沿革の他、園内の樹木や植物の詳細な説明がありました。

その後、北大農場を見学いただき、最後に見学いただいた北海道大学総合博物館では、湯浅万紀子教授による総合博物館の詳細な説明の後、展示室で参加者と一緒に周りながら解説をいただき、博物館を隈なくご覧いただきました。

参加の皆様からは、「校友会エルムの活動と北大をより知ることができ、大変有意義だった」との意見も寄せら

れ、保護者会員の皆様及び校友会エルムの双方にとって大変有意義なイベントとなりました。



レストランエルムでの昼食会



キャンパスツアーの様子（植物園）



キャンパスツアーの様子（農場）



キャンパスツアーの様子（博物館）

総務企画部広報課・校友会エルム

円満な相続の実現のために

9月28日（土） 13:30～15:00 学術交流会館第2会議室 参加者16名

広報課と校友会エルムの共催で、相続や遺贈に関するセミナーを実施しました。

株式会社三井住友銀行から北大OBを含む講師をお招きし、円満な相続の実現に向けての必要な準備について、丁寧に説明いただきました。

遺産相続の際に起こりうる出来事や心情の移り変わりを読み解きながらの講演や、講師の実体験に基づくお話に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

人気の終活ノートの配布や、参加者の皆様の関心の高さが伺える具体的な質

疑応答など、大変充実した内容となりました。



北大OBを含む講師紹介の様子



講演の様子

ほっかいどう同窓会

ランチパーティー

9月28日（土）12:00～13:30 クラーク会館食堂 参加者94名

ほっかいどう同窓会では、校友会エルムと共催でランチパーティーを開催しました。

三上 隆ほっかいどう同窓会会長による歓迎の挨拶に続いて、笠原理事・副学長から、同窓会との絆を深めていきたいというお話があり、歓談に移りました。

途中、東京同窓会の方からジンパの報告もあり、杉江和男校友会エルム会長の中締め挨拶の後、参加者は次の行

事にむけて解散となりました。

食事はこれまでも北海道の食材を中心に構成されていましたが、今年はさ

らに北大農場の牛乳やカボチャなど、北海道大学産の食材を初めて使用した料理を用意し、好評でした。



一般社団法人恵迪寮同窓会

大寮歌祭 in 札幌, 文化講演会

大寮歌祭 in 札幌

9月28日（土）16:00～18:00 クラーク会館大集会室1 参加者90名

恵迪寮には天下に誇るべき寮歌があります。「都ぞ弥生」をはじめとして、明治40年から今日にいたるまで、寮生の手により作られ、歌い継がれてきました。

一般社団法人恵迪寮同窓会では、北海道・東京・関西のそれぞれの同窓会が持ち回りで「大寮歌祭」を行っていますが、今年は北海道が主管です。ホームカミングデーの日に「大寮歌祭 in 札幌」と銘打って今回の催しを行い

ました。

当日は、佐伯 浩元総長に出席していただきました。また、出席者の中には、本州からはるばる参加した方々が9名、長年の良きライバルであり友でもあります小樽商科大学関係者が10名いらっしゃいました。そして、嬉しいことに現役の恵迪寮生が12名も駆けつけて、都合90名の老若男女が寮歌一色に染まったひと時でした。

今年は三部構成で、第一部と第三部

は寮歌高唱として15曲を披露しました。第二部では特別企画として、来年初作歌100周年を迎える「大正5年桜星会歌 環珞みがく」と最新の寮歌2曲（「110回記念祭歌 蔦壁照らす」「平成30年 広がりし海原に」）にスポットをあてました。

楽しく有意義な時はあっという間に過ぎ、最後は皆で肩を組み、足をあげての「ストーム」で大団円となりました。



大寮歌祭



平成寮歌を歌う現恵迪寮生



大寮歌祭の大団円はストーム

文化講演会

9月28日（土）14:00～15:30 クラーク会館大集会室2 参加者70名

恵迪寮同窓会は、北大ホームカミングデーに2013年より参加し、北大・恵迪寮の精神と寮歌の継承を目的に「文化講演と寮歌の集い」を行っています。

今年は、長澤徹明北大名誉教授を講師としてお迎えし、「北海道開拓と札幌農学校」と題し講演いただきました。北大農学部出身の長澤名誉教授は北大農学部、大学院農学研究院で長く教育・研究に携われ、寒冷地の農業土壌学、地域環境学を専門とされています。

講演は、「北海道開拓政策と札幌農学校」、「札幌農学校の教育と卒業生」、「特色ある農村景観の形成」、「泥炭地開発」について資料を駆使し、新渡戸稲造が北海道庁技師本務として篠

津泥炭地試験に関っていたこと、現在の北海道の農村景観を特徴づけている格子状区画が内田 滯らによる植民地選定により形成されたこと、開拓には札幌農学校・農業土木が大きく関わってきたことなどが具体的に示されました。さらには、内村鑑三の思想に感銘を受けて現実の課題解決に取り組む医

師・中村 哲氏の行動も紹介され、思想、事業、人の生涯と、それらの関わりについての示唆に富む講演でした。恵迪寮同窓会会員の心に往時の感激を想起させるとともにさらには行く先・生き方に示唆を与えるものでした。長澤徹明名誉教授に大変感謝申し上げます。



講演中の長澤徹明名誉教授



文化講演会「北海道開拓と札幌農学校」

株式会社セコマと「災害時における応急生活物資の供給等に関する協定」を締結

9月25日（水）、本学と株式会社セコマ（以下、セコマ）は、「災害時における応急生活物資の供給等に関する協定」を締結しました。なお、本学にて行われた調印式には、笠原正典本学総長職務代理と丸谷智保セコマ社長が出席しました。

セコマが大学と災害時における物資供給等に関する協定を締結するのは、本学が初めての事例となります。ま

た、セコマは32自治体と災害時における物資供給協定を締結しており、自治体以外の団体との締結は本学が5例目となります。

セコマグループでは、昨年7月より本学の敷地内においてコンビニエンスストア「セイコーマート」の店舗運営を行っており、昨年9月に発生した北海道胆振東部地震では、飲食物等を求める多くの学生等に対して、非常用電

源キットを使用して営業を継続することで、災害対応を行っていただきました。

本協定を締結することにより、店舗での災害対応に加え、本学が独自に開設する避難所等への食料品等の応急生活物資をセコマグループから供給いただくことが可能となります。

（総務企画部総務課）



調印式の様子



笠原正典総長職務代理（左）と丸谷智保社長（右）

北海道大学生生活協同組合と「災害時における相互協力に関する協定」を締結

10月1日（火）、本学と北海道大学生生活協同組合（以下、北大生協）は、「災害時における相互協力に関する協定」を締結しました。なお、本学にて行われた締結式には、笠原正典本学総長職務代理と柿澤宏明北大生協理事長が出席しました。

北大生協は学内に複数の売店や食堂等の店舗を有しており、災害等発生時における北大生協からの支援は非常に大きく、昨年の北海道胆振東部地震では、物流がストップする中、学内各店舗の商品や食材を集約した臨時営業、一人暮らしで食料も何もない学生への対応としてクラーク食堂での炊き出し、生協会館に携帯電話の無料充電

サービスコーナーを設置するなどの支援活動を行っていただきました。

本協定の災害支援活動としては、飲料、食料その他生活必需物資の提供の他に、食堂等施設の災害対策への利

用、防災訓練等への参加など、幅広い事項が想定されており、本協定による災害対応力の強化が期待されます。

（総務企画部総務課）



締結式の様子



笠原正典総長職務代理（左）と柿澤宏明理事長（右）

避難所運営訓練（避難所運営ゲーム北海道版）を開催

9月20日（金）、本学附属図書館大会議室において、避難所運営訓練（避難所運営ゲーム北海道版）を開催しました。

昨年9月に発生した北海道胆振東部地震では、本学第2体育館に避難所を設置しましたが、その際にも避難所の重要性や課題を改めて認識したところです。

本研修は、避難所運営ゲーム（Doはぐ）を通した模擬体験をすることで、避難所で起こる状況の理解と適切

な対応を学ぶことを目的に、本学のリスク管理・危機管理担当の山崎淳一郎産学・地域協働推進機構教授を講師として開催しました。

Doはぐは、真冬に直下型地震が発生しガス等が使えないという想定に沿って、250枚のカードで示された様々な条件を、グループで話し合っ解決していく「防災教育カードゲーム」であり、静岡県が開発した避難所運営ゲーム（HUG）に、北海道が積雪寒冷の厳しい気候面や東日本大震災の経

験などの観点を加えて作成したものです。

本研修には、事務局職員35名が参加し、参加者の97%が本訓練を通して、避難所のイメージや問題意識の高まりを実感する結果となりました（アンケート結果参照）。

総務企画部総務課では、今後とも継続的に防災訓練を実施する予定です。

（総務企画部総務課）



訓練の様子



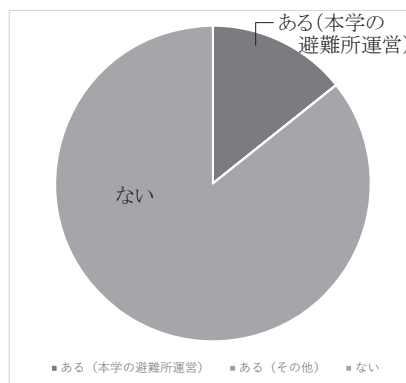
「Doはぐ」を使用した訓練



講義を行う山崎教授

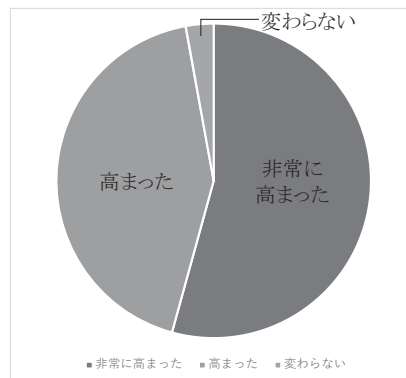
I. これまでに、避難所運営（本学避難所運営等）に参加もしくは避難所運営訓練を受講したことはありますか。

ある（本学の避難所運営）	5
ある（その他）	0
ない	30
合計	35



II. 本訓練を通した模擬体験により、避難所で起こる状況のイメージや問題意識は高まりましたか。

非常に高まった	19
高まった	15
変わらない	1
合計	35



アンケート結果

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

募金目標額は50億円です。奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動することとしています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報

基金累計額（9月30日現在）

25,091件 4,949,689,260円

9月のご寄附状況

法人等14社、個人174名の方々から19,008,821円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。（五十音別・敬称略）

寄附者ご芳名（法人等）

江別市立病院，特定医療法人社団千寿会，医療法人社団なかむら整形外科クリニック，ニューオータニイン札幌，
一般財団法人ハスカッププラザ，北大旧教養地学一同，北海道大学大学院医学研究院 腎泌尿器外科学教室，
一般財団法人北海道東北地域経済総合研究所，三島会計事務所

寄附者ご芳名（個人）

合川 正幸	吾妻 知美	安彦 和之	阿部 元輝	井浦 功雄	池田 陽一	砂子沢成人	石井好二郎
石坂 優人	井原 博	入澤 秀次	岩崎 克巳	岩田 正道	宇田川禮一	縁記 和也	大島 貢
大原 正範	大屋 厚	岡田 雅文	男鹿谷 修	奥田 尚	奥田 英信	刑部 博人	小田 庸男
小田川泰久	小田原一史	小内 透	笠原 賢明	金川 眞行	梶島 孝典	亀澤 一昭	亀田 徹
川田 恒	川村 潤一	河本 充司	木崎 亮佑	北守 昭	工藤 俊彦	倉持 允昭	小池 清仁
小池 秀正	小嶋 一輝	斉藤 久	佐伯 竜子	坂井 洋一	櫛原 悟志	坂本 大介	佐々木亮子
佐藤 健也	佐藤 淳治	里深 公慈	佐邊 壽孝	三升畑元基	志済 聡子	島田 昂	清水 隆秀
宿田 恵子	杉江 和男	鈴木 貴之	鈴木 紹夫	鈴木 泰	関根 君恵	瀬名波栄潤	高野 一男
高橋 英一	高橋 健一	高橋 進	高見 敏彦	竹内 信彦	田中 充哉	田中 康雄	辻 英幸
土家 琢磨	土屋 裕	寺澤 睦	戸田 純子	豊田 威信	長尾 正敏	長岡 宗男	中川 洋
中澤 広	中島 由貴	中塚 英俊	仲野 大地	中原 政信	中村 正也	長本 克義	長屋 良行
西 信之	西井 準治	西田 実弘	西本謙太郎	根本 守	長谷川 久	林 達也	原 直美
廣井 基祥	福永 悟郎	藤澤 裕子	藤田 亨	藤本 康男	舘上 玲子	逸見 勝亮	寶金 清博
細井 康雄	前田 博	政氏 伸夫	増子 佳弘	松浦 清	松田 健一	松原 謙一	三浦敬一郎
三浦 淳	三津 正人	皆川 一志	南 明里	宮田 信幸	村上 幸夫	森谷 梨	八重樫 悟
山岸 義和	横井 成尚	横田 篤	横山 考	吉田 広志	吉添 高兆	脇坂 聖憲	和田 清明

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法 人）

特定医療法人社団千寿会，一般財団法人北海道東北地域経済総合研究所

（個 人）

岩田 正道，小田 庸男，工藤 俊彦，小池 秀正，坂井 洋一，高橋 進，高見 敏彦，西 信之，藤田 亨，
細井 康雄，増子 佳弘，三浦敬一郎，三津 正人，八重樫 悟

感謝状の贈呈



社会医療法人恵佑会 様（令和元年9月13日）



株式会社クレタ 様（令和元年9月17日）



オリンパス株式会社 様（令和元年9月19日）



医療法人五風会 さっぽろ香雪病院 様
（令和元年9月24日）



三津正人 様（令和元年9月27日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。

<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし，ご記入の上，基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて，基金事務室にご持参ください。

申込書は，ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか，基金事務室にもご用意していますので，基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

（<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>）の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

北大フロンティア基金 寄附者懇談会を開催

令和元年8月29日(木)、ファカルティハウス エンレイソウにて、令和元年度北大フロンティア基金寄附者懇談会を開催しました。この催しは、本学に多大なるご寄附を賜りました皆様をお招きして、直接謝意をお伝えするとともに、本学の取り組みや基金の活用状況の報告を行うために毎年緑の豊かなこの季節に行っているものです。

今年度は平成30年6月1日から令和元年5月31日までに累計20万円以上ご寄附頂いた方を招待し、全国から法人・個人合わせて60名の寄附者の方々

にご参加いただきました。

懇談会では冒頭に、笠原正典総長職務代理から挨拶し、その後北大フロンティア基金の支援事業を代表して、新渡戸カレッジ 和順教頭から新渡戸カレッジの活動報告を行いました。続いて、北大フロンティア基金から奨学金を受けた学生を代表し、新渡戸カレッジ生 米谷菜那さん(文学部人文科学科4年)、中桐匠平さん(獣医学院博士後期課程2年)、国際インターンシップ参加者 岩見謙太郎さん(医学部医学科4年)からスピーチを行い

ました。

寄附者の皆様は、在学時の思い出や、ご寄附に至った想い、近い将来の北海道大学の姿などについて語らいながら、懇談とランチを楽しまれた様子でした。

寄附者の方々を対象とした懇談会は、来年度も開催予定です。

今後とも北大フロンティア基金へのご理解ご協力をお願いいたします。

(総務企画部広報課)



米谷菜那さん



中桐匠平さん



岩見謙太郎さん



歓談する寄附者の皆様

鈴木なみえ氏に紺綬褒章が授与



左から、笠原正典総長職務代理、鈴木なみえ氏、皆川一志理事

北大フロンティア基金に多額の寄附をされた鈴木なみえ氏に紺綬褒章が授与されました。

鈴木なみえ氏の弟の鈴木利器氏(故人)は、昭和43年4月に本学文学部に入学され、卒業するまでの4年間奨学金を受給したことから、この度、亡き弟から相続した遺産を北大フロンティア基金の一般資金に寄附を賜りました。また、鈴木なみえ氏からはこれまでに3度にわたり寄附をいただい

ります。

8月29日（木）に開催した北大フロンティア基金寄附者懇談会後に行われた伝達式では、鈴木なみえ氏より、利器氏の思い出などを伺いました。その後、本学関係者が見守る中、笠原総長職務代理から褒章、褒章記が伝達され

ました。

*紺綬褒章とは、公益のために私財（個人の場合500万円以上）を寄附した者を対象に、表彰されるべき事績の生じた都度、各府省等の推薦に基づき審査され、授与されるものです。

国、地方公共団体又は公益団体（公益を目的とし、法人格を有し、公益の増進に著しく寄与する事業を行う団体であって、当該団体に関係の深い府省等の申請に基づき賞勲局が認定した団体）に対する寄附が授与の対象となります。

（総務企画部広報課）

Integrated Science Program (ISP) 入学式を挙行



出席者記念撮影

一昨年度より開始された外国人留学生を対象とした理系の学士課程・修士課程プログラムである「Integrated Science Program（インテグレイテッドサイエンスプログラム）（ISP）」の入学式を9月25日（水）に理学部大講堂において行い、当該プログラムの第3期生となる7名（7ヶ国）が学士課程に入学しました。

このプログラムは、国際社会で活躍できる人材の育成を目的としており、

学士課程では、入学後半年間で理系分野に関する幅広い基礎知識を身につけ、その後、理系学部 of 諸分野から所属学科が決定され、学びを深めることとしています。今回入学した第3期生は、理学部（物理学科・化学科・生物科学科生物学専修分野）に移行して、専門教育を受けることとなっています。

入学式は、ISPのプログラム長である長谷川晃理事・副学長、副プログラ

ム長の鈴木久男教授、堀口健雄理学部長及び理学部物理学科、化学科、生物科学科教員の列席の下、緊張の中にも和やかな雰囲気で行われました。

最初に、長谷川プログラム長が祝辞を述べ、本学の学生として一步を踏み出したISP第3期生達に歓迎の意を表しました。

続いて、ISPコーディネーターの瀬戸 治特任准教授による新入生の紹介が行われ、タイ出身のルーラング・シラターさんが代表して宣誓を行いました。

最後は、後輩となる学生達の入学を祝うために駆けつけたISP第1期生及び第2期生も交えて、列席者全員で記念撮影が行われました。

入学式終了後は、同会場にて理学部主催の新入生ガイダンスが開催され、各学科の紹介を中心とした興味深い内容に新入生達は熱心に聞き入っていました。

（学務部教育推進課）



長谷川インテグレイテッドサイエンスプログラム長による祝辞



新入生代表による宣誓

Science Lecture 2019「その危険，観察してみる？～蚊，マダニを覗いて学ぶ感染症研究の最前線～」を開催

7月27日（土），人獣共通感染症リサーチセンターにて，サイエンスレクチャーが行われ，小中高生43名が参加しました。

今回のレクチャーでは，夏のアクティビティの大敵である「蚊」や，道内に生息する「マダニ」が媒介する人獣共通感染症にスポットを当てました。まず，主催者を代表して西島一泰読売新聞北海道支社長，西井準治創成研究機構長／理事・副学長から挨拶がありました。西井理事・副学長は，「当センターは普段は入ることのできない施設なので，この貴重な機会にぜひ楽しんでいってください。また，143年実学研究を続けてきた北大ならではの研究を体感してもらえれば」と述べました。司会は，鈴木定彦教授（人獣共通感染症リサーチセンター

長）が務め，3名の講師からレクチャーを行いました。

江下優樹客員教授（人獣共通感染症リサーチセンター 招へい教員）は，日本国内には生息していない種類の蚊の顕微鏡画像を見せるなど，蚊に関する幅広い知識を伝授しました。大場靖子講師（人獣共通感染症リサーチセンター 分子病態・診断部門）は，蚊やマダニがウイルスを媒介する仕組みについて説明し，林田京子特任助教（人獣共通感染症リサーチセンター 国際協力教育部門）は，マラリアなどを例に，蚊とマダニの媒介する寄生虫について講演しました。

その後，参加者はマラリア原虫やマダニ媒介性ウイルスに感染したマウスの細胞を観察しました。また，蚊やマダニの実物標本を観察し，「種類に

よって体の特徴も違って面白い！」と子どもたちは興奮した様子でした。また，センターの施設や装置なども見学しました。

レクチャーに参加した高校生は，「普段は知ることのない蚊やダニについて知れて，とても興味深かったです。特に，蚊という一つの生物でも種類によって媒介する病気が違うのが面白いなと思いました」と話していました。

蚊やダニによって運ばれる感染症は，すでに私たちの身近な脅威になりつつあります。今回のイベントの受講者が，人獣共通感染症を身近なものとしてとらえ，身を守るために対策を行うきっかけになることを期待します。

（総務企画部広報課）

Science Lecture 2019

「その危険，観察してみる？～蚊，マダニを覗いて学ぶ感染症研究の最前線～」

日時：2019年7月27日（土）13:00～15:30

会場：人獣共通感染症リサーチセンター

主催：創成研究機構

人獣共通感染症リサーチセンター

読売新聞北海道支社

共催：国際連携研究教育局 人獣共通感染症グローバルステーション

協力：総務企画部広報課

CoSTEP

連携：TERRACE -科学とアートが出会う場所-

後援：札幌市教育委員会

*Science Lectureは北海道大学 創成研究機構と読売新聞北海道支社が締結している協定のもとに開催しています。



マダニの実物標本を見て驚く子供たち



講師と一緒に，ウイルスに感染した細胞を観察



参加者全員で記念撮影

高等教育研修センターにて研修会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、8～9月に以下のとおり研修会を開催しました。

(高等教育推進機構)

Teaching in Englishワークショップ【入門編】 参加者：12名

開催日：8月7日（水）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：英語による授業というだけで学習意欲が低下してしまう受講生もいる中で、教員はどのような点に気をつけ、どのように授業を行っていけば良いのか学びました。これから英語で授業を行う予定のある教員を対象とした、入門編のワークショップとして開催しました。



モチベーション向上研修～一歩を踏み出す自分軸を見つける～ 参加者：15名

開催日：8月9日（金）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

研修概要：本研修は、自分は何のために今この仕事をしているのかを考え、パワフルに行動できるようになる『自分軸』を見つけることを目的として開催しました。自分の働く意識を掘り下げるコミュニケーションを通じ、仕事のモチベーション向上を図りました。



ワークショップ「初めてのシラバス作成」 参加者：7名

開催日：8月16日（金）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：授業の目的・目標、評価と授業計画の三つの基本要素や、どのように授業を作り込んでシラバスを作成すべきなのか、実践を通じて学びました。本ワークショップは、これから授業を担当する予定のある人が、担当する可能性のある授業シラバスを作成するための入門編として開催しました。



ワークショップ「教育研究活動における異文化コミュニケーション」 参加者：12名

開催日：8月21日（水）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：効果的な異文化コミュニケーションスキルを身に付け、異文化を理解する上で注意しなければならないポイントや学生が抱える共通の問題（カルチャーショックなど）等の取り扱い方法を学びました。海外の研究者等とより良い関係性を構築したい、もっと効果的な協働をしたい、文化的誤解が生じるのを避けたいといった人を対象として開催しました。



講演会「キャンパスにおける身体のケア」 参加者：30名

開催日：9月13日（金）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：本セミナーは、講演に加え、自宅で簡単に実践できるカラダ引き締め・健康づくりのための実技を実践しました。



実用英会話（業務英会話）研修 参加者：88名

開催日：9月9日（月）、11日（水）、12日（木）、17日（火）、19日（木）、24日（火）

開催場所：情報教育館3階スタジオ型研修室

開催概要：本研修は、学生時代の既習の単語や表現を思い出ししながら、英語を話すことに慣れ親しみ、英語で業務をしなければならない場面でも落ち着いて会話ができるようになることを目的として開催しました。



令和元年度北海道大学インターンシップを実施

9月9日（月）～9月13日（金）の5日間、本学学生を対象としたインターンシップを実施しました。

本インターンシップは、特に近年、社会的にインターンシップへの参加希望者が増加していること、本学卒業生に係る進路状況においても就職先として本学が高い順位を示していること等を踏まえ、学生に就業体験の機会を与えることにより、職業意識の育成・向上に寄与し、あわせて本学に対する理

解を深めることを目的として実施しています。

今年度は、1名の学生を受け入れました。（下記表参照）

初日は実習生を対象として、インターンシップ開講式及び全体オリエンテーションを実施し、各部署担当者から「組織運営」「財務」「学務」「施設」「図書」「国際」の6つのテーマに基づき、本学の概要が説明されました。

実習生は、初めての就業体験に緊張や戸惑いを見せていましたが、担当職員から業務の説明を受けると真剣に聞き入り、積極的に業務に取り組んでいました。

今後とも職業体験を通して本学の魅力を発信し、多くの学生に就職先として本学を選択してもらえよう、取り組みを続けていきます。

（総務企画部人事課）



電話対応をする様子



作成に携わったブラックボードとの一枚

受入部局	受入開始日－終了日 【実働日数】	実習生	
		所属	学年
学務部	9月9日（月）－9月13日（金）【5日】	教育学部	3年

「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」、「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」入学式を挙行

本年10月入学の「北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）」、「日本語・日本文化研修コース（日研コース）」及び「日本語研修コース」の入学式を、10月1日（火）に学術交流会館において行いました。

HUSTEPは、本学の協定校に在籍する留学生に対して原則として英語による授業を実施する1年または6か月間のプログラム、日研コースは、母国で日本語・日本文化に関する教育を行う学部在籍している留学生に対して日本語・日本文化・日本事情に関する

教育を行う1年または6か月間の研修コース、そして日本語研修コースは、大学院進学前の大使館推薦の国費留学生、工学部進学前の日韓理工系プログラムの留学生、及び現代日本学プログラム予備課程の留学生に対して開設されている6か月間の日本語予備教育を行う研修コースです。

今回入学したのはHUSTEPに63名、日研コースに61名、日本語研修コースに31名の合計155名です。

出席者の紹介が行われた後、各プログラム担当教員によるプログラム紹介

があり、学生は起立し、温かい拍手で迎えられました。その後、長谷川晃高等教育推進機構長からの祝辞、HUSTEP 1年コースのブキャナン デボン クラークさんによる留学生代表スピーチが続き、ブキャナンさんは留学への意気込みや抱負について英語で楽しく語りました。

最後は、学生たちの緊張もほぐれ、和やかな雰囲気の中、笑顔いっぱい集合写真の撮影を行いました。

（学務部国際交流課）



長谷川晃高等教育推進機構長による祝辞



北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）1年コース留学生



北海道大学短期留学プログラム（HUSTEP）半年コース留学生



日本語・日本語文化研修コース（日研コース）留学生



現代日本学プログラム留学生（日本語研修コース）



国費留学生・日韓理工系プログラム留学生（日本語研修コース）

第7回アフリカ開発会議（TICAD7）サイドイベントへ参加

8月27日（火）から30日（金）まで、パシフィコ横浜において、アフリカ53か国、開発パートナー52か国、108の国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表等、42名の首脳級参加者を含む約10,000名が参加し、第7回アフリカ開発会議（TICAD7）が開催されました。本学アフリカルサカオフィスの中心となって本会議場に北海道大学の紹介ブースを設置し、本学のアフリカにおける学術・留学生交流、研究及び国際協力活動の紹介及びサブサハラ・アフリカにおける「日本留学海外拠点連携推進事業」をはじめとするアフリカルサカオフィスの活動紹介を行いました。

ブースには、アフリカルサカオフィスから奥村正裕所長（獣医学研究院教授）、日下部光准教授、人獣共通感染症リサーチセンターから副センター長の澤 洋文教授、ザンビア拠点長の東秀明教授、梶原将大特任助教、シンプトウェ・マニヤンド研究員（ザンビア）、工学研究院から伊藤藤生助教、片岡良美技術職員、保健科学研究院から山内太郎教授、メディア・コミュニケーション研究院から鍋島孝子教授、国際連携機構から南波直樹国際オフィサー、植村妙菜URA、国際部から村瀬達哉国際協力マネージャー、安高由香利特定専門職員が参加して、広報活動を行いました。

本学はアフリカから100名以上の留学生を受け入れており、特にザンビアとは長い研究交流と実績を有しています。来日したザンビア共和国のエドガー・ルング大統領が本学のブースを訪問し、東教授及びザンビア大学から留学中のマニヤンド研究員が本学とザンビア大学で行う共同研究活動を紹介し、その様子は現地の新聞やテレビにて大きく報道されました。

このほか、本学が議長校を務める「日本・アフリカ大学連携ネットワーク（JAAN）」も会議場内にブースを設置し、加盟校と共にアフリカにおける日本の大学の活動を紹介しました。

一方、一般会場では様々なサイドイベントが企画されており、獣医学研究院が中心となって実施しているSATREPS「ザンビアにおける鉛汚染のメカニズムの解明と健康・経済リスク評価手法および予防・修復技術の開発」の研究チームが、研究報告を行うパネル展示及びセミナーを実施しました。「アフリカにおける人獣共通感染症との闘い」（外務省、JICA、国際獣疫事務局主催セミナー）では、人獣共通感染症リサーチセンター特別招へい教授・統括の喜田 宏ユニバーシティプロフェッサーが登壇し、また、「アフリカの地域のびとと研究者が共創する未来型サニテーション」（総合地球環境研究所サニテーションプロジェクト主催セミナー）では保健科学研究院山内教授と工学研究院片岡技術職員が研究発表を行いました。

更に、8月27日（火）に東京大学にてTICAD7のパートナー事業として開催された日本・南アフリカ大学（SAJU）フォーラムによる大学ダイアログに笠原正典総長職務代理がパネリストとして出席し、本学とザンビア大学との人獣共通感染症抑制・予防に関する共同研究や人材育成の実績、アフリカルサカオフィスの開設、本学のアフリカ諸国との研究や学生交流について紹介しました。

また、TICAD7登壇のために来日されたベライ・ベガシャウアフリカ地域持続可能な開発目標センター総裁が8月28日（水）に函館キャンパス、29日（木）に札幌キャンパスに来学され、水産学部や農学部等の研究関係者が研究紹介を行いました。

（国際部国際連携課）



本学の紹介ブース



ザンビア大統領に本学の活動を紹介



日本アフリカ大学ダイアログパネルディスカッション



ザンビア大統領訪問の掲載記事（ZAMBIA TIMES）

第2回日露大学協会総会に参加



総会参加者および学生による集合写真



発表する笠原総長職務代理

9月23日（月）、ロシアのモスクワ国立大学にて、第2回日露大学協会総会（第8回日露学長会議）が開催され、本学から笠原正典総長職務代理、加藤博文モスクワオフィス所長のほか、スラブ・ユーラシア研究センター、電子科学研究所、低温科学研究所及び大学院保健科学研究院等から教職員が参加しました。

日露大学協会は、日露両国の大学間の交流推進を目的として2009年にスタートした日露学長会議をその前身として、2016年12月の日露首脳会談の際に、両国の高等教育機関の代表の署名により、大学間交流強化のための「日露大学協会」設立についての了解覚書が締結され、2018年に本学で第1回総会を開催しました。

モスクワで開催された今回の総会には、日本側から20大学、ロシア側から21大学の合計41大学が参加しました。当日は、各大学の学長、副学長及び教職員等、約150名が参加しました。また、日露学生フォーラム（後述）参加学生57名が傍聴しました。

総会では、「人材交流」「医療健康」「地域開発」の3つの分野を軸に、学長同士が、日露の学術交流の現状と課題について活発に意見交換を行いました。議論の中で、翌24日（火）に行われる学術フォーラムや人材交流委員会について、人文社会や医療分野等での協力強化等、今後の展望についても言及されました。

また、協会では産官学連携による人材育成を重視しており、今回、日立建機モスクワ事務所より、企業から見た産官学連携の現状、課題、期待についてお話しいただきました。併せて、会場内に、日露の交流に関心の高い企業がブースを設置し、大学関係者と交流する機会を設け、産官学を結ぶ試みとなりました。

本総会は、日本政府からの注目度も高く、昨年度の林 芳正文部科学大臣（当時）に引き続き、今回は文部科学省から芦立 訓文部科学審議官に出席いただき、ご挨拶されました。芦立文部科学審議官は、今後の活動への期待、また、文部科学省が、引き続き、両国の間の大学間交流の一層の拡大に向けて、日露大学協会の活動を含む、日本の大学等に対する支援をしたいと発言されました。このほか、在ロシア日本国大使館より相木俊宏特命全権公使にご挨拶をいただきました。

最後に、共同議長のモスクワ大学学長と本学笠原総長職務代理が共同宣言を採択し、幕を閉じました。次回の総

会は、2021年春に新潟大学で開催されます。

また、総会に並行して、23日（月）から28日（土）にかけて開催された日露学生フォーラムには、日露大学協会に加盟する大学から日本側30名、ロシア側27名の合計57名の学生が参加しました。

日露学生フォーラムは、昨年度の総会で設立が承認された日露学生連盟の活動の一つであり、23日（月）の総会における代表学生の発表を皮切りに、テーマ別のディスカッションや発表、在ロシア日本国大使館山本敏夫公使や日露の大学教員による講演、エキスカッションなどが行われました。1週間にわたり、寝食を共にした交流を行うことで、日露学生間の絆を深めることができましたようです。1年半後に新潟で開催される日露学生フォーラムに向けて、日露学生連盟の活動が活発化することが期待されます。

翌日24日（火）に開催された日露学術フォーラムには、様々な分野の研究者および学生約100名が参加しまし



総会における学生フォーラム参加者代表学生による発表



学生フォーラムにおけるグループワークの様子

た。うち28名から歴史、考古学、心理学、哲学、言語、文学、経済学、国際政治学、環境科学と幅広いテーマにわたる発表が行われ、活発な議論が交わされました。

同じく24日（火）には日露人材交流

委員会幹事会が開催され、大学関係者29名が参加し、日露の単位互換制度構築の可能性について検討しました。

（国際部国際連携課）



学術フォーラムの様子

日本留学海外拠点連携推進事業主催日本留学フェア （於ロシア連邦・モスクワ）を開催

文部科学省の委託事業「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として、9月21日（土）、モスクワ市内のメトロポールホテルにおいて日本留学フェアを開催しました。昨年度もモスクワでは開催していますが、今回は本学がモスクワ国立大学内に開設した北海道大学ロシアモスクワオフィスが実施する初めての留学フェアであり、在ロシア日本国大使館、日本貿易振興機構（JETRO）モスクワオフィス、在モスクワ日本センターとの共催により開催しました。

当日は、本学ロシアモスクワオフィス加藤博文所長（アイヌ・先住民研究センター教授）の開会挨拶、在ロシア日本国大使館の山本敏夫公使からの祝辞に続いて、本学ロシアモスクワオフィス留学コーディネーターから日本留学の概要を説明した後、ロシアの学生による日本留学体験談の講演がありました。その後、日本から参加した大学10校・日本語学校1校及び企業等^{*}による日本留学のプレゼンテーショ

ン、及び個別相談が行われました。

本事業では、留学に関する情報のみではなく、留学後のキャリアパスまで含めた体系的な日本留学情報の提供を目指しており、優秀なロシア人学生の獲得を求めるビジネス界からの関心も高く、今回、在モスクワの日本企業8社の参加がありました。会場は、用意した座席が満席で立ち見が出るほどの盛会となり、個別相談用のブースでは、日本への留学のほか、日本企業への就職について熱心に質問をする学生や親子連れで賑わい、最終的な来場者数は、約250名を数えました。

モスクワでの留学フェアに先立ち、9月19日（木）にはサンクトペテルブルクにおいて筑波大学による同事業の日本留学フェアが開催され、本学を含め日本から13大学（うち6大学は資料参加）が参加しましたが、モスクワ同様約250名の来場者があり、日本留学への関心の高さを改めて認識しました。

ロシアにおける日本留学に関する情

報提供については、需要に供給が追いついていない状況にあり、本学ロシアモスクワオフィスでは、今後もキャリアパスまで含めた形での留学フェアをロシア各地で開催するなど日本留学を促進するほか、日露の学生交流、学術交流、経済交流推進に資する活動を実施していく予定です。

^{*}日本から参加した大学10校・日本語学校1校は、金沢大学、京都外国語大学、京都先端科学大学、信州大学、筑波大学、東海大学、東京外国語大学、新潟大学、北海道大学、早稲田大学、大原日本語学院です。現地からは、在ロシア日本国大使館、日本貿易振興機構（JETRO）モスクワオフィス、株式会社エイジェック、株式会社テクノソリューション、日本電子株式会社、三井物産モスクワ有限会社、GledLingvo、Lango有限会社（Study in Japan Guide）、Radical Labo Russia LLC、UNIQLOロシアが参加しました。

（国際部国際連携課）



全体会の様子



個別相談会の様子

ケニアの首都ナイロビで「日本留学フェア」を開催

本学アフリカルサカオフィスが中心となって、9月21日（土）、ケニア共和国の首都ナイロビ市に立地する在ケニア日本国大使館で「Study in Japan Fair in Nairobi 2019（日本留学フェア）」を開催しました。本フェアは、サブサハラ・アフリカ地域の優秀な学生の日本留学誘致を目的に、文部科学省から受託している「日本留学海外拠点連携推進事業」の一環として実施したものです。

東アフリカの玄関口として経済成長がすすむケニアには、本邦自動車メーカーが相次いで現地生産工場を建設するなど、日本企業の進出がすすんでおり、2016年の第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）開催国としてその成功を牽引し、アフリカ地域におけるリーダーシップを発揮しています。また、首都ナイロビにはアフリカ最大級の日本人コミュニティがあること、日本がケニアに対する主要な援助国であることなどを背景に、日本語学習者数がサブサハラ・アフリカにおいて上位を占めています。

本フェアは、在ケニア日本国大使館の共催のもと、大使館内にある日本文化広報センターの施設及び広報ネットワーク、全職員の多大な協力を得て開催することができました。また大使館に加え、ナイロビ市内外の大学等で活躍している日本人及びケニア人の日本語教師や在ケニアの日本人にも協力をいただきました。

日本からは本学のほか、秋田大学、愛媛大学、岡山大学、帯広畜産大学、京都大学、東洋大学、長崎大学、山梨学院大学、あしなが育英会の計9大学1機関が参加しました。本学からは、アフリカルサカオフィス所長の奥村正裕獣医学研究院教授、工学研究院の藤井義明教授、アフリカルサカオフィス留学コーディネーターの日下部光特任准教授、成澤徳子特任助教、大門 碧特任助教と山本ひとみ特定専門職員、国際部の村瀬達哉国際協力マネージャーと安高由香利特定専門職員が参加しました。

屋内ホールに加えて中庭にバラソールとテントを設置し、ホールでは日本留学と国費奨学金プログラムの概要説明や日本留学体験談、ケニアでの日本語教育の紹介を行うセミナーを、中庭及び会議室内に設けられた9大学1機関のブースでは、参加者への個人面談を随時行いました。資料参加した22大学^{*}のパンフレットも設置し、ブースを歩き来する参加者がゆっくりと資料を手取る時間を設けました。さらに中庭にある屋外のテントでは、各大学・機関からそれぞれのアピールポイントが熱心に述べられました。このようなプログラムを組むことで、ブースでの面談時間を長くとり、各参加者がそれぞれの興味をもとに確実に必要な情報を集めることができるフェアを目指しました。

なお、9月20日（金）には、同大使館で、日本留学フェアのサイドイベント「Joint Workshop between Kenya and Japan（学術交流ワークショップ）」を開催しました。本イベントは、日本留学促進に向けて、日本とケニアの大学間交流を深め、将来の共同研究と学生交流の活性化を視野に入れたものです。当日は日本の大学7校とケニアの大学7校から、50人の教職員が集まるなか、最初に堀江良一駐ケニ

ア特命全権大使から歓迎の挨拶があり、続いてケニア教育省・大学教育課のダリウス・モガカ・オグトゥ課長の挨拶、奥村アフリカルサカオフィス所長による本事業の説明がありました。その後、日本学術振興会ナイロビ研究連絡センターの溝口大助センター長、国際協力機構（JICA）ケニア事務所の宮川聖史次長が各機関の研究助成制度について紹介し、アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABEイニシアティブ）の修了生が設立したNGOカケハシ・アフリカのサティ・アルサ議長がケニアと日本の大学間交流の意義について発言しました。加えて、ケニア及び日本双方の参加者7名から、これまでの研究及び今後希望する共同研究や、期待する大学間交流の内容について発表があった後、専攻分野ごとに分かれて、約1時間にわたり互いの意見やアイデアが交換されました。

今回の日本留学フェアは、大使館のSNS、日本語教育関係者、ナイロビ大学、ジョモケニヤッタ農工大学、ケニヤッタ大学という既に日本の大学と関係を持ちつつさらなる交流を望んでいる大学に協力を得て、事前の広報活動を実施した結果、ナイロビ近郊の15を超える様々な大学から日本留学に強い



ホールで開催したセミナー



屋外の各大学・機関のブース



フェアにおける本学のブース



屋外のテントで実施した各大学・機関の説明

興味、関心を持つ学生約240名の参加を得ることができました。本事業のもと、ナイロビに本学アフリカルサカオフィスのサテライト拠点の設置がすすめられており、今後本サテライト拠点の留学コーディネーターを中心に、引き続き日本とケニアの学生交流を促進していきます。

*大阪大学、お茶の水女子大学、北見工業大学、九州大学、九州工業大学、熊本県立大学、国際大学、筑波大学、東京海洋大学、東京工業大学、東京国際大学、東北大学、鳥取大学、富山大学、名古屋大学、弘前大学、宮崎大学、山形大学、横浜国立大学、立命館アジア太平洋大学、立命館大学、早稲田大学（計22大学、50音順）

（国際部国際連携課）



学術交流ワークショップでのフリーディスカッション

令和元年度「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催

9月10日（火）から13日（金）に、「局所排気装置等の定期自主検査者講習」を開催しました。局所排気装置に関する知識・技能の習得を目的として、今年度は例年の理学部、工学部に加えて、3年ぶりに水産学部（函館キャンパス）も含めた3会場で実施し、合計31人が受講しました。

化学物質を扱う際の経気道ばく露を防止して安全に実験を行うための装置として、本学でもドラフトチャンバー等の局所排気装置が多数の実験室に設置されています。これらの適切な維持管理のために、労働安全衛生法では1年を越えないごとの定期自主検査が義務付けられております。

本講習では、最初に安全衛生本部川上貴教教授による講義、続いて茨城大学工学部技術部金澤浩明技術専門職員による室内および室外での実技実習を行いました。本学の講習内容では、厚生労働省の示す「局所排気装置の定期自主検査指針」に則った検査技術の習得だけでなく、簡単なメンテナンス方法についても合わせて学ぶことで、ドラフトチャンバー等の構造の理解を深め、性能低下の原因特定や問題の切り分けができることを目指すという特色があります。具体的なメンテナンス技術としては、プレフィルター清掃、湿式スクラバーの水槽洗浄、乾式スクラバーの活性炭交換、排風機のベルト交

換、軸受へのグリス充填などを紹介していますが、そういった経験のない受講者も多く、各回とも活発な質疑応答が行われました。本講習で学んだ内容は今後の各実験室での局所排気装置等の維持管理や、学生への指導等に活かされるものと期待されます。

なお、本講習は、次年度以降も開催する予定です。局所排気装置等を使用する研究室の教職員におかれましては、機会をみつけて積極的にご受講いただきますようお願いいたします。

（総務企画部総務課安全衛生室）



講義の様子



実習の様子（屋内フード）



実習の様子（排風機）

「生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設慰霊祭」を挙行

創成研究機構では、9月27日（金）に、生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター動物実験施設において、創薬・機能性食素材の研究開発・事業化の礎として実験に供せられたマウス、ラット、ウサギの慰霊祭を執り行いました。

慰霊祭には同施設で研究を行っている教職員、大学院生等54人が参列しました。

始めに生物機能分子研究開発プラットフォーム推進センター幸田敏明センター長から、動物実験は、尊い命を犠牲にしていることを常に念頭に置いて実施していただきたい旨の挨拶があり、その後、参列者全員による黙祷並びに献花が行われ、終わりに綾部時芳先端生命科学研究院教授から、医学・生命科学の研究のために捧げられた動物に対する慰霊の言葉が述べられました。

参列者全員が生命の尊厳、倫理観について考える機会となり、厳粛のうちに慰霊祭を終了しました。

（研究推進部研究支援課）



挨拶を述べる幸田センター長



参列者による献花

「函館地区キャンパスマスタープラン策定に向けた意見交換会」を開催

サステイナブルキャンパスマネジメント本部「キャンパスマスタープランの策定・実現ワーキンググループ（WG）」は、9月18日（水）、水産科学研究院管理研究棟において「函館地区キャンパスマスタープラン策定に向けた意見交換会」を開催しました。

本学は、キャンパスの将来像の考え方と実現に向けた手順を総合的・体系的に示した「キャンパスマスタープラン2018（CMP2018）」の考え方を踏襲しつつ、函館地区個別の施設整備・運営実態を踏まえ、「函館地区キャンパスマスタープラン」を今年度策定する

こととしています。本意見交換会は、同プラン策定に当たり、今後のキャンパス整備について函館キャンパスに勤務する構成員から広く意見を募るため、水産科学研究院の協力により開催したものです。

本意見交換会には、同WGから小澤丈夫大学院工学研究院教授（テレビ会議システムにて参加）、小篠隆生同准教授ら4名、大学院水産科学研究院及び総合博物館から教職員11名の参加がありました。函館キャンパスの課題のうち「学生、教職員が健康で快適に過ごせる安全・安心なキャンパス整備」

「誇りをもてる函館キャンパスの魅力づくり、固有資産の継承」「自律的かつ持続的な函館キャンパスマネジメントの推進体制の構築」の3つのテーマについてグループに分かれて意見交換を実施し、それぞれ活発な議論が行われました。

同WGでは、本意見交換会で交わされた意見・提案等を踏まえ、「函館地区キャンパスマスタープラン」の内容を更に充実させていく予定です。

（サステイナブルキャンパスマネジメント本部）



小篠准教授によるキャンパスマスタープランの説明



意見交換の様子



意見交換の成果の発表

■ 部局ニュース

北海道大学学芸員リカレント教育プログラム（学藝リカプロ） 公開イベント「文化拠点とまちづくり」を開催

令和元年9月21日（土）、東川町で、公開イベント「文化拠点とまちづくり」を開催しました。これは、文学研究院が主体となって取り組んでいる文化庁助成事業「北海道大学学芸員リカレント教育プログラム（通称、「学藝リカプロ」）」の一環として行われたものです。本プログラムは、通常は現役の学芸員等を対象にリカレント教育の機会を提供するという事業ですが、今回は、東川町の複合交流施設「せんとびゅあⅠ・Ⅱ」を会場とし、一般にも公開するかたちで実施しました。「写真のまち」「文化のまち」として知られる東川町の文化施設を体感しながら、文化施設とまちづくりとの関係について改めて考えようという試みです。会場には学藝リカプロの参加者や東川町の職員・住民など、32名が集まりました。

イベントでは、まず、学藝リカプロ代表である佐々木亨文学研究院教授の全体挨拶に続き、工学研究院の小篠隆生准教授によるレクチャーが行われました。小篠准教授は、東川町の文化拠点であり、今回のイベントの会場でもある「せんとびゅあⅠ・Ⅱ」を設計し、同町のまちづくりに携わってこ

れた先生です。レクチャーでは、まちづくり全体のなかでの「せんとびゅあ」の位置づけや、計画が進んでいくなかで次第に町民の意識や希望が明確になっていった経緯、組織体制も含めた運営上の戦略など、広範な話題が語られました。レクチャーの冒頭では、地域課題を住民自身の手で解決していくというコミュニティ・マネジメントの潮流が紹介されましたが、「せんとびゅあⅠ・Ⅱ」の建設過程も、その後の運営のあり方も、まさに自分たちの地域課題を自分たちで解決していく事例として貴重なものだと言えそうです。

レクチャーの後には、ミニ・エクスカーション「せんとびゅあさんぽ」が行われました。「せんとびゅあ」の大野仰一館長の案内で、実際に館の内外を歩いてみる企画です。「せんとびゅあ」は、図書館の機能に加えて、アーカイブやミュージアム、カフェやショップといった機能をもち、さらに日本語学校とその宿舎まで備えている施設です。エクスカーションの途中では、幼児とその父母、学校帰りの小・中学生、勉強をしている日本語学校の留学生など、さまざまな利用者の姿を

目にして利用実態を知ることができました。

最後に、文学研究院の今村信隆特任准教授の司会で、参加者全員がパネリストとして発言してよいという、少し変わったシンポジウム「ライフスタイル、ライフコース、ミュージアム」を開催しました。学藝リカプロ参加者でもある北海道内の現役学芸員、ミュージアム関係者、主婦、大学院生等に加え、東川町の学芸員や職員、町議会議員も参加して、ディスカッションを行いました。学藝リカプロの受講生・聴講生は、プログラムの場では学ぶ立場にありますが、それぞれに自分のフィールドをもった専門家・実践者でもあります。シンポジウムでは、そうした受講生・聴講生から、北海道内各地のミュージアムでの事例や個人の活動が積極的に紹介され、ひととミュージアムとの長期的な関係のあり方について多角的な議論が交わされました。「せんとびゅあ」のにぎわいを実感しつつ、そこから得たヒントをもとに、ミュージアムについて考える時間になりました。

（文学研究院）



会場にはさまざまな椅子が並ぶ



小篠准教授のレクチャー



エクスカーション「せんとびゅあさんぽ」



エクスカーションでは館内ギャラリーも見学



シンポジウム「ライフスタイル、ライフコース、ミュージアム」



シンポジウムでの議論の様子

教育学部でESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2019 (夏季北大プログラム) を開催



ESDプログラム受講者・教員スタッフ

7月31日（水）から8月9日（金）にかけて、ESDキャンパスアジア・パシフィックプログラム2019を開催しました。

教育学部では、「社会の持続可能な発展にとって教育のもつ役割は何か？」を主題とした双方向型短期留学支援事業であるESD（Education for Sustainable Development：持続可能な発展のための教育）キャンパスアジア・パシフィックプログラムを、韓国・高麗大学校とソウル国立大学校、中国・北京師範大学、タイ・チュラロンコン大学及びロシア・サハリン国立大学の各教育学部と連携して、2011年から毎年開催しています。本プログラムは北海道大学サマーインスティテュートとしても位置づけられており、提携校以外の海外の大学（中国・北京科技大学、南開大学、西北師範大学、西安建築技術大学、インドネシア・ボゴール農科大学）から合わせて12名の参加者を迎えることができました。その結果、2019年度は北大生9名、海外生25名が夏季北大プログラムに参加しました。

また事前学習の一環として、HUSTEP国際交流科目受講生と合同の「教育学国際講義」を開講しました。本講義は、2019年に「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律案」が成立したことになみ、先住民族と「法」という問いをめぐるって考えると

いうものでした。北海道のアイヌの現状について平取町在住の貝澤太一氏による講義を拝聴し、それをふまえて世界の先住民の直面する諸問題について受講者なりの回答が導き出されました。

夏季北大プログラムは派遣先大学ごとに海外生活のサポートをし合う「バディ・プログラム」を特徴としています。留学生を出迎えることから始まり、2日目はオリエンテーション及びキャンパスツアーの後、サマーインスティテュート招へい教員であるSam Bamkin講師（De Montfort University）と、Tyrel Eskelson講師（教育学研究特任講師）により講義を行いました。続く3日目にはJeffrey Gayman教授（教育学院／メディア・コミュニケーション研究院）による講義を行いました。

本プログラムのもう一つの特色は、「北海道の先住民であるアイヌ民族の文化の理解及び彼らと共存・共生する日高管内平取町の地域振興とアイヌ政策推進について学び考える」という、



平取町副町長および役場職員との対話

受講者が社会文化的観点から地域の問題に即してESD教育を捉えるための札幌市及び平取町におけるフィールドワークの実施です。今年度は、8月3日（土）に札幌市内に点在する博物館などを受講者がテーマを決めて訪問するアイヌ文化のミニフィールドワーク、及び、8月6日（火）からの1泊2日の日程での平取町フィールドワークを実施しました。

平取町フィールドワークでは、平取町やアイヌについてのGayman教授による講義を受講した上で、札幌市内フィールドワークを通じて考え出された質問を平取町の住民の方々に直接尋ねてみるという形式を取りました。平取町副町長遠藤桂一氏をはじめ平取町役場の職員のみなさん、萱野茂二風谷アイヌ資料館館長の萱野志朗氏、平取町にて農業と狩猟を行う貝澤氏・門別徳司氏、九州から移住して平取町に暮らす貝澤美和子氏といった、平取町においてそれぞれの立場からアイヌ施策に関与されてこられた方々からの生の声を聞くことができ、受講者からは熱心な質問が相次ぎました。フィールドワーク最終日には貝澤氏・門別氏のご指導のもとで、アイヌが山に狩猟に行く際に周囲の木や木の皮、落の葉で作る「クチャチセ」を受講者全員で作りました。この活動を通して、北海道の自然の中でアイヌが受け継いできた知恵について五感を通して学ぶことができました。

本プログラム9日目午後から、北大プログラムのまとめとして、受講生が6つのグループに分かれ、「先住民の知恵とSDGs」というテーマで最終報



クチャチセ作り

告を行いました。講義やフィールドワークで学んだことが十二分に発揮されただけでなく、受講者の自国での現状と照らし合わせ、白熱した議論が交わされました。報告会終了後は、受講生へ修了証書と記念品を授与し、実りある交流が達成できました。

本事業の特徴は双方向型短期留学であり、ESD夏季北大プログラム終了

後、北大生は2～3名のグループに分かれて海外大学へ派遣されます。訪れた現地では、各大学のバディと再会し10日間の秋季海外大学プログラムに参加します。さらに、来年2月には市立札幌開成中等教育学校の教諭・生徒及び平取町フィールドワークの各講師を招待して最終報告会を行う予定です。

このように、本プログラムへの参加

が契機となり、本学学生と海外の大学生が将来的に国家を越えての交流を継続することや、社会の持続可能な発展のために寄与できる「グローバル人材」として成長することが期待されます。

(教育学院・教育学研究院・教育学部)

法学研究科FD研修を開催

10月3日(木)、人文・社会科学総合教育研究棟において、法学研究科FD研修を開催しました。

今回は「情報機器ならびにソーシャルネットワークサービスの適切な活用」と題し、情報セキュリティ対策室長の南 弘征教授に講演いただきました。

SNS、情報機器の利点・欠点、懸念事項について、様々な具体例を挙げな

がら丁寧な解説が行われ、「被害者」「加害者」にならないためには、情報機器及びその利用にかかるリスクについて常に意識することが必要であること、また情報発信の際には、その情報が自分以外にも影響を及ぼすことについて常に気を配る必要があることの重要性を説明いただきました。

法学研究科及び公共政策学連携研究部から参加した教職員55名は熱心に講

演に聴き入り、より身近な問題として、学生だけでなく教職員が理解しておくべきことを再認識することができました。また、講演終了後には質疑もなされ、大変有意義なFD研修となりました。

(法学研究科・法学部)



池田清治研究科長から講師のご紹介



講演する南教授



解説に聞き入る会場の様子

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターセミナーを開催

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センターでは9月27日（金）に、＜利尻ナイト＞「カリスマ・ネイチャーガイドと考える通年型北海道観光の可能性」と題して、セミナーを開催しました。

講演者として、国土交通省北海道運輸局観光部国際観光課長の村上浩之氏、まるぜん観光株式会社代表取締役でネイチャーガイドの渡辺敏哉氏、国際山岳ガイドでプロスキーヤーの佐々木大輔氏の3名をお招きし、株式会社まちづくり観光デザインセンターCEOで地域プロデューサーのかとうけいこ氏の司会でセミナーを進行しました。

まず村上氏から、北海道におけるインバウンド環境の現状と課題について、詳細なデータにもとづいてお話しいただきました。次に渡辺氏から、利尻島及び宗谷地方におけるとりわけ冬の観光客誘致の取り組みや冬の利尻島の観光資源の優位性について、美しい写真や動画を交えてお話しいただき

ました。佐々木氏からは、利尻大滑降やデナリ大滑降など過去の冒険スキーについてのご経験をご紹介いただいた後、北海道の雪が観光資源としていかに優れているか、また北海道の冬に観光客を誘致するための課題は何かについてお話しいただきました。これらを受け、また会場からの質問を踏まえて、司会のかとう氏のファシリテーションによって、3名の講演者の間で通年型北海道観光の可能性に関するディスカッションが行われました。

今回は一般市民の皆様のご参加も促

すべく、初めての試みとして金曜日の19時から21時という時間帯にセミナーを設定いたしました。その結果、利尻、稚内、滝上、倶知安、旭川、釧路などの道内各地はもとより、東京や神戸など道外からも多くのオーディエンスにお集まりいただき盛会となりました。今回のセミナー開催に際しては、稚内しんきん（稚内信用金庫）よりご後援をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

（経済学研究院）



渡辺敏哉さんの利尻島の話に熱心に聞く参加者



司会のかとうさんと渡辺さん、佐々木さんとのディスカッション

先端生命科学研究院FD研修「大学評価におけるTOP10%論文の重要性」を実施

近年、大学の研究力の定量的指標として論文の被引用数に基づく指標が重視されています。先端生命科学研究院では、これらの指標について理解を深めるため、9月19日（木）シオノギ創薬イノベーションセンター・産学コミュニティホールにて、大学力強化推進本部・研究推進ハブ・URAステーション・主任URA岡田直資氏を講師としてお招きし、大学評価における被引用数TOP10%論文の重要性についてFD研修会を実施しました（参加者約45名）。

講演では、論文出版状況の国別比較や国内大学間比較が提示されるとともに、大学評価の共通指標としてTOP10%論文数が国立大学の評価・予算配分に用いられるようになったこと、本学が研究大学であり続けるためにTOP10%論文数の増加を目指していることなどがわかりやすく説明されました。また、大学力強化推進本部が学内教職員向けに提供している指標情報を付与し

た本学論文リストが紹介され、その活用例として、(1) 部局の外部評価対応の効率化、(2) 部局等の将来構想立案への活用、(3) 教員等の論文出版戦略・宣伝活動（投稿する学術誌の選定、出版した論文の周知、外部資金申請や報告における研究業績のアピール）などが示されました。なお、最後にこのリストは改善のためのデータ提供であり、教員・部局評価に使わないことも補足説明されました。

質疑応答では、研究活動が評価ファーストでは大学研究の魅力が失いかねないこと、優れた研究であってもリストには載らない場合もあるなど意見交換されました。また大学全体で共通評価に対応するには、教員全体で日本の大学評価の現状を情報共有できるよう資料の英語化など国際化対応の要望も上がりました。

（生命科学院・先端生命科学研究院）



講師（URAステーション・岡田氏）



FD研修会場の様子

医学部・歯学部合同慰霊式を挙行

医学部及び歯学部では、9月26日（木）に、学術交流会館講堂において、この1年間に系統解剖、病理解剖及び法医学解剖のため、本学に尊い御遺体を捧げられ、その御遺体を通して病因・病態の究明に、あるいは人体構造機能の理解に、貴重な御教示を遺された403名の御霊の御冥福をお祈りする

ため、慰霊式を執り行いました。

慰霊式には、御遺族、笠原総長職務代理、理事、部局長、教職員、学生、学外関係者等約380名が参列しました。

式は解剖体御芳名奉読の後、参列者全員による黙祷を行い、次いで、吉岡充弘医学部長及び八若保孝歯学部長から、御霊の御意志に報いるためにも一

層の教育・研究・診療の発展に努めたい旨の追悼の辞がありました。その後、参列者による献花を行い、最後に吉岡医学部長から謝辞があり、慰霊式は厳粛のうちに終了しました。

（医学院・医学研究院・医学部、歯学院・歯学研究院・歯学部）



献花をする笠原総長職務代理



献花をする学生



謝辞を述べる吉岡医学部長

薬学研究院・薬学部・生命科学院が国立陽明大学薬物科学院（台湾）と部局間交流協定を締結



調印式後の記念写真

薬学研究院・薬学部及び生命科学院は8月29日（木）、国立陽明大学薬物科学院と部局間交流協定を締結しました。国立陽明大学は1975年に設立された国立陽明医学院を母体とし、1994年に現在の名称に変更されるとともに医系総合大学として拡充されました。同大学薬物科学院は2002年に設置された新しい学院（学部）であり、本学薬学研究院とは、2018年から日本と台湾の6大学による「Japan-Taiwan Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences」を共催しています。札幌で2018年に開催した同シンポジウムで来

札された康 照洲薬物科学院長から、本学とより幅広い交流を希望する旨の要望が寄せられ、今回の部局間交流協定の締結に至りました。国立陽明大学の会議室で執り行われた調印式には、国立陽明大学から康院長の代理の林満月教授・薬学系主任を含む多くの関係教員が参加し、本研究院からは佐藤美洋薬学研究院長及び菅原 満薬学研究院教授・北大病院薬剤部長が出席しました。調印式の直前には、国立陽明大学の薬学関連学院の教授と今後の交流に向けた意見交換会も実施し、本交流協定締結に基づき、両部局間におい



意見交換会で説明する菅原教授



佐藤研究院長と国立陽明大学教員

て様々な分野での交流が活発に行われることが期待されます。

（薬学研究院・薬学部）

薬学研究院が「The 5th Japan-Taiwan Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences」を共催



シンポジウム参加者

8月30日（金）、本学薬学研究院を含む6大学共催により「The 5th Japan-Taiwan Joint Symposium for Pharmaceutical Sciences」を台北医学大学で開催しました。

本学と台北医学大学とが2015年に大学間協定を締結したのを記念し、同年

に初めて、九州大学薬学部を加えた「薬学系3大学によるジョイントシンポジウム」として、第1回シンポジウムを本学で開催しました。開催が一巡した昨年の札幌開催から規模を拡大し、日本と台湾の3大学を新たにに加え、北海道大学、九州大学、東北大

学、長崎大学、台北医学大学（台湾）、国立陽明大学（台湾）による「6大学ジョイントシンポジウム」へと発展しました。

今年のシンポジウムでは、臨床系、生物系、化学系、物理系の薬学全領域から6大学合計12名の教員による招待講演を行い、さらに新たな試みとして学生による発表のセッションを設けました。交換留学プログラムにより薬学部・生命科学院から台北医学大学に滞在していた本学学生2名も、本プログラムでの体験を英語で発表しました。本ジョイントシンポジウムは、今後も各大学持ち回りで開催する予定で、参加各大学の国際的な研究・教育における交流活動がますます発展することが期待されます。

（薬学研究院）

令和元年度 地球環境科学研究院 公開講座『生物の「変化」：理由、メカニズム、そして影響』が終了

地球環境科学研究院では、令和元年度公開講座『生物の「変化」：理由、メカニズム、そして影響』を8月20日（火）から9月24日（火）まで全6回で開講し、20歳から90歳代までの69人が受講しました。

多くの生物は、多様な環境に適応して自らの体の形や生き方を変化させます。このような生物の変化の理由やしくみ、影響を探究することは、私たちが気候変動や人間活動が野生生物に及ぼす影響の理解や、生物の進化についての洞察へと誘います。本講座では、生物に見られる「変化」をキーワードに、様々な環境に生息する多様な生物

が環境や生息状況に応じてどのように体の形や生き方を変化させ、適応しているのかについて、6名の研究者が最新の研究成果をわかりやすく説明し、受講者からも非常に好評のうちに終了しました。



大原 雅研究院長による開講挨拶

最終回の講義終了後、全6回の講義のうち4回以上出席した64人の受講者に修了証書が授与されました。

（地球環境科学研究院）



内海俊介准教授による講義（第1回）

物質科学リーディングプログラム 新プログラム生8名を採用

物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム(ALP)*は、10月1日(火)に新プログラム生8名(第6期生5名、第5期編入生3名)を採用しました。これらの新プログラム生は、総合化学院、生命科学学院、理学院、工学院、環境科学学院の関連5専攻の修士課程の学生の中から、書面、面接の二段階の選抜試験を経て採用されました。プログラム生の採用は今年度で7回目となり、初年度およびその翌年度に採用されたプログラム生はすでにALPを修了し、社会で活躍しています。

採用に先立ち、9月19日(木)に理

学部本館(総合博物館)大会議室で新プログラム生の採用式が行われ、一人ひとりに認定書が授与されました。長谷川晃理事・副学長からの挨拶では、「ALPは北大を代表する教育プログラムのひとつ。新プログラム生は様々な活動を行うことで成長してほしい」との激励の言葉が述べられました。採用式に続き、法哲学が専門である長谷川理事・副学長により「Ambitious研究倫理セミナー：科学の法秩序」と題したセミナーを行いました。新プログラム生にとっては、採用式の直後にこのセミナーを受講することにより、研究者自身と社会の関係性を深く考える

良いきっかけとなりました。

*ALPは、文部科学省博士課程教育リーディングプログラム事業の支援を受けて平成25年度よりスタートした5年一貫の大学院教育プログラムです。産業界や学術・研究機関など、様々な領域で幅広く活躍可能なグローバルリーダーを養成することを目的としています。そのために、「圧倒的専門力」「俯瞰力」「フロンティア開拓力」「国際的実践力」「内省的知力」と名付けた5つの力を獲得することを目標としたカリキュラムと、充実した経済支援をプログラム生に提供しています。

(総合化学院)



新プログラム生の集合写真



「科学の法秩序」に関するセミナーを行う長谷川理事・副学長

国際食資源学院と農学研究院がミャンマー・パテイン大学と International Joint Symposiumを開催



パテイン大学関係者と本学関係者による記念撮影

本学では、熱帯アジア新興農業地域における生産基盤開拓技術の現地教育研究拠点形成事業として、国際協力機構（JICA）の協力のもと、アジア農業地域での持続可能な開発技術の普及に向けた研究と教育を推進しています。

この事業の一環として、国際食資源学院と農学研究院では、ミャンマー連邦共和国のパテイン大学との共催で、9月26日（木）にエーヤワディ州の州都パテイン市で、「Challenges for the Education Development on Agriculture and Food Resources in Tropical Asia」と題するInternational Joint Symposiumを開催しました。

シンポジウムにはミャンマー国内を含む11カ国から教職員及び学生等約250名の参加があり、農と食にまつわ

る教育システムの開発及び社会実装と、熱帯アジア地域における農業及び食資源に関連する様々な課題に関する先進的な研究、実践的また学際的な取り組みが紹介されました。

シンポジウムは華やかな歌と舞踏を交えたオープニングセレモニーに始まり、コーネル大学 Khin Mar Cho教授、イエジン農業大学JICAチーフアドバイザー・九州大学 吉村 淳名誉教授、本学インドネシア・アンバサダーでもあるボゴール農業大学 C. Hanny Wijaya教授、パテイン大学 Kay Thi Mya教授、本学 曾根輝雄教授の5名のキーノート・スピーカーによる基調講演を行いました。

午後からは、Economics, Philosophy, Phytochemicals, Animal Science, Microbial Active Compounds,

Mangrove, Coral, Microbial Ecology, Water Science, Agronomy and History, Food Microbiology, Plant Taxonomy, Plant-Microbe Interaction Geology, Fishery, Engineeringなど多様なテーマにわたる13の分科会が設けられ、延べ243件の興味深い発表と活発な質疑応答が行われました。

翌日は、希望者によるエクスカーショを行いました。水稻栽培試験圃場では栽培方法、乾期作、雨期作などの作付時期や収穫までの期間について説明を受け、参加者は稲の生育や水田の様子などを熱心に視察していました。また養鶏場では、野生動物の侵入を防ぐため高床式になっていることや、孵化から出荷までの流れについて等の説明を受けました。最後に訪問したパテイン大学マリンサイエンスセンターでは、ここでの研究についてスライドで説明を受けた後、実際に船でマングローブの再生林を視察しました。

本学から参加した教職員にとっては熱帯アジア地域における農業開発技術に関する新たな課題の認識を、学生にとっては新興農業地域の現状を認識するとともに、国際プレゼンテーションの絶好の機会となり、今後の研究に向けた貴重な知見とアドバイスを得ることができました。

（国際食資源学院、農学研究院）



多くの参加者で埋め尽くされたメイン会場



Si Si Hla Bu パテイン大学長への記念品贈呈



分科会での質疑応答の様子

水産科学研究院が標津町及び標津サーモン科学館と連携協定を締結

水産科学研究院は、9月14日（土）に標津町及び標津サーモン科学館との間で連携協定を締結しました。本協定は、三者が互いの連携のもと、学術・教育・文化及び地域振興に関する各分野において協力し、相互の発展と充実を図ることを目的としています。

標津町と本学とは、昭和50年代に本学の教員が町内の孵化場で魚の病原体保有調査を行ったことで交流が始まり、その後も漁港の水質調査や、標津町出身の教員による町内の学校での出前授業や招待講演など、多岐にわたる交流が続いています。また、標津サーモン科学館とは共同研究や本学の学生によるサケ科魚類の調査研究などで交

流を行っています。

標津町役場で行われた締結式には、金澤 瑛標津町長、市村政樹標津サーモン科学館長、木村暢夫研究院長が出席し、協定書への署名を行いました。

今回の協定締結により、標津町の水

産資源の有効活用や六次産業化による地域経済の活性化、雇用の創出などにむけた、三者間の人材交流と人材育成の活発化が期待されます。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）



協定書への署名の様子



締結後の記念撮影（左から市村標津サーモン科学館長、木村研究院長、金澤標津町長）

水産科学研究院で「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」 「これが意外とムズカシイ!海岸動物（ヤドカリ、巻貝、クラゲ）の社会関係」を開催

8月6日（火）に函館キャンパスにおいて「これが意外とムズカシイ!海岸動物（ヤドカリ、巻貝、クラゲ）の社会関係」を開催しました。これは科学研究費助成事業「基盤研究（C）：ヤドカリの配偶者選択：他個体との遭遇履歴を社会情報として利用するか」（研究代表者：和田 哲教授）による成果をもとに、北海道大学の科学研究の一部を体験してもらうプログラムです。令和元年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（研究成果公開促進費）の交付を受けて実施しました。

本プログラムは、高校生を対象に募集し、道内外から訪れた21名を参加者に迎えました。開講式では本プログラムの趣旨と科研費に関して説明し、その後「行動生態学の基本」と題した講義を行いました。

実験では、ヤドカリの交尾前ガード行動の観察や、オスは他のオスがガードしているメスに興味を示すことを実証しました。参加者は各自で顕微鏡を

操作し、大変熱心に観察をしていました。また、飼育施設の見学時間を設け、研究の現場を詳しく体験できるように配慮しました。

講義や実験の途中に挟んだ昼食時やクッキータイムには、当日スタッフとして参加していた水産学部の学生や大学院生を交え、参加者同士も和やかな雰囲気の中で交流を図っていました。高校生である参加者にとって、大学での研究生活を知る良い機会になったと思います。

予定していた全ての講義・実験を無事に終了し、修了式で修了証書の授与を行い閉講となりました。

本プログラムを通して、参加者は、希少なサンプルや高額な機械がなくても、身近な道具を使って身近な動物を観察することにより、おもしろい現象を発見したり、感じた疑問を自分なりに追求したりできるということを学び、「研究」をより身近に感じてもらえたと思います。

最後に、参加者募集から当日のサポートまで尽力してくださった教職員及び学生並びに講師の方々に心より感謝申し上げます。

（水産科学研究院）



実験の様子



飼育施設の見学

令和元年度水産学部公開講座「海をまるごとサイエンス!」が終了

水産学部では8月5日（月）から9月7日（土）の期間で公開講座「海をまるごとサイエンス!」を開講し、全5回で延べ256名が参加しました。

本講座は今年で33回目の開催となり、毎年出席される方も多いイベントです。函館と深い関わりのある水産学について、例年同様に本学部の教員が

講義を行いました。魚類分類学、開発水産学、水産工学、海藻学、養殖技術といった幅広いテーマが取り上げられ、それぞれの分野が関連し合って水産業の発展に寄与していることが学べる講座となりました。

講義の最後に設けている質問コーナーでは、生活に役立つ海藻の調理法

から函館の産業活性化に関する期待まで、熱心な質問や意見が毎回寄せられました。

最終回では、全5回中4回以上出席した27名に学部長から修了証書が授与されました。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

各回の講演題目と講師

第1回 「魚類分類学のすすめ」

水産科学研究院 教授 今村 央

第2回 「開発水産浪漫紀行：つながる海と営み、世界と未来」

水産科学研究院 助教 東条斉興

第3回 「水中カメラを使った魚の観察技術」

水産科学研究院 准教授 米山和良

第4回 「モジュールな生き物、海藻の世界を体験する」

水産科学研究院 教授 安井 肇

第5回 「ウニは時々悪いことをするけど、基本的にはいい奴」

水産科学研究院 准教授 浦 和寛



受講風景



修了証書授与式の様子

北方生物圏フィールド科学センターで「公開水産科学実習」を開催

北方生物圏フィールド科学センター水圏ステーション臼尻水産実験所・七飯淡水実験所及び忍路臨海実験所は、文部科学省教育関係共同利用拠点「食糧基地、北海道の水圏環境を学ぶ体験型教育共同利用拠点」に認定されています。その取り組みの一環として、他大学の学生が参加できる公開水産科学

実習「夏季フィールド科学実習」を8月26日（月）～30日（金）に、「パイオロギング実習」を9月2日（月）～5日（木）に開催しました。以下に、それぞれのプログラムを紹介します。

なお、教育拠点における実習は、今年度末（春季）に別の3プログラムが予定され、来年以降も継続されますの

で、興味のある方は当事業のホームページをご覧ください。

◆<http://www.fsc.hokudai.ac.jp/suisan-kyoten/index.html>

（北方生物圏フィールド科学センター）

夏季フィールド科学実習

忍路臨海実験所・洞爺臨湖実験所及び臼尻水産実験所にて開催し、全国から6大学9名の学生が参加しました。

実習前半では、海藻と環境DNAに関する講義の後、忍路湾において、コンブをはじめとする海藻類の採集と分類、磯舟に乗っての湾内の磯焼けの状態観察や海水の水質測定を行いました。また、屋内にて、使用するガラス器具を自ら作成してコンブ葉体から放出された胞子の単離実験を実施し、さらに、環境DNA手法を用いた実海水中のコンブ胞子数の推定も行うことで、藻場の役割を理解するとともに、

増養殖種苗生産技術の背景となる技術を学びました。

実習後半では、臼尻水産実験所にて、北海道の海洋環境と生物多様性に関する講義の後、シュノーケリングでの前浜周辺に生息する生物の生態観察、地曳き網・定置網漁船への乗船体験や獲れた魚の種同定に加え、メタバーコーディング法により検出された魚類相の精査作業も体験し、生物多様性を調べる様々な手法について学び、暖流と寒流が混じり合う海域の持つ高い生物生産力について理解を深めました。

参加学生からは、「1回の実習で多くを経験することができ、人生において印象深い実習となった」「シュノーケリングや環境DNAの測定など初めて経験する内容が多く、とても有意義なものだった」「自大学では扱わない分野ばかりで非常に興味深く、北海道大学で何を研究しているかを知る良い機会となった」「普段自分が潜る海との違いが比較できて非常に有意義であっただけでなく、環境DNAといった新たな分野の実験も体験できて、視野が広がった」など好意的な感想が数多く寄せられました。



忍路湾での海藻採集



磯焼け観察



コンブの胞子単離実験と組織標本観察



シュノーケリングの様子



地曳き網で獲れた魚の仕分け作業



集合写真

バイオリギング実習

白尻水産実験所・七飯淡水実験所及び函館市国際水産・海洋総合研究センター（海洋センター）にて実施し、全国から10大学20名の学生が参加しました（うち本学学生3名）。

4日間にわたる実習では、水産生物の資源動態を把握する必要性について学ぶため、参加学生はバイオリギングについての講義を受けた後、ウミガメやイナダ・ボラ・アメマスなどの魚類に加速度や深度を記録するバイオリギング機器を取り付けて海洋センター内の大型水槽へ放流しました。また、参

加学生自身でGPS機器を持ち歩き、実際に移動軌跡を記録して解析する行動観察の方法も学びました。その後、東洋大学の伊藤元裕講師、本学水産科学研究院の富安 信助教による海鳥・魚類・無脊椎動物など様々な水圏生物を対象としたバイオリギング研究について講義を受けました。最終日には、実習期間中に取得した生物の行動データを解析してレポートにまとめ、研究発表を行いました。

参加学生からは、「インターネットではわからない技術が学べて、とても

充実していた」「今回学べたことは自分の研究や今後の調査に大きく役立つと思った」「他大の学生と交流を深めることで、他大学で展開されている研究も知ることができたので参加してよかった」「今後の研究のビジョンが生まれた」「実際にカメや魚に触れ、機材装着やデータ解析も自分の手で行うことができて非常に有意義だった」など好意的な感想が数多く寄せられ、実習は盛況のうちに終了しました。



バイオリギングについての講義



生物の計測と機器の取り付け作業



ロガーとカメラを取り付けたアカウミガメ



東洋大学伊藤講師による講義



データ解析の様子



集合写真

北海道大学病院で災害医療訓練を実施

北海道大学病院では、9月3日（火）、医師や看護師、学生ら約300人が参加し、広域大規模災害の発生を想定した第16回北海道大学病院災害医療訓練を実施しました。

訓練は、札幌近郊で大地震が発生し、一部医療機能が停止した状況で傷病者を受け入れるという想定で行われました。

まず、傷病者の緊急度や重症度によって治療や後方搬送の優先順位を決めるトリアージセンターを外来玄関前

と外来ホールに設置し、予めそれぞれに設定された被災状況に応じたメイクを施された70名ほどの模擬被災者を、トリアージタグと呼ばれるタグ（緑、黄、赤、黒の4色）を用いて優先順位を識別し、それぞれの対応センターへ振り分けます。赤タグがつけられた重症者はアメニティホールに搬送され、担当職員らは声かけをしながら対応の流れを確認しました。DMAT（Disaster Medical Assistance Team）と呼ばれる災害時派遣医療チームも災害対策本

部に配置され、本部運営等のサポートを行いました。また、医療機器や模擬被災者の搬送、ボランティアの受け入



トリアージセンターの様子

れ、被災者の安否確認対応などの訓練も行われました。

約1時間にわたる訓練は、秋田弘俊病院長による訓練終了の宣言で幕を閉じました。

このような、大がかりな訓練を定期

的に実施することにより、職員の危機意識の向上と、実際の災害直面時に適切な対応が可能となることが期待されます。

(北海道大学病院)



処置治療センター（黄）の様子

バスケットボール部関係資料を大学文書館で受贈

大学文書館では、バスケットボール部OBの皆様から部の沿革に関する資料を寄贈いただきました。木村光彦様から4月4日（木）に大会プログラム「全道学生バスケットボール秋季選手権兼全日本学生バスケットボール選手権道予選」（1976年10月）を受贈した後、9月10日（火）に三井良一様から資料5箱を、9月18日（水）及び9月25日（水）に坂本仁彦様から資料2箱を受贈しました。

三井様、坂本様から9月にご寄贈いただいた資料は、スコアブック、部誌、大会プログラム、優勝カップ、トロフィー、写真などです。

スコアブックは、1940～2000年代

（1942,46-47,50-55,60,62,63,65-72,74-76,95,97-2008）の試合が記録されています。部誌『わ』は、1～16,18～46・47合併号（1967～2017年頃発行）が揃っており、大会プログラムは、国体北海道予選会、インカレ、国立7大学バスケットボール大会、国立7大学総合体育大会、全日本バスケットボール選手権大会など、1950～2010年代の大会があります。

そのほか、「戦績表」のデータ、『北海道大学バスケットボール部75周年記念部誌 楡籠』（2008年10月発行）の編纂資料である新聞スクラップ集、75周年記念式典（2008年11月15日挙行）の行事ファイルもあります。

受贈した資料は、今後、「バスケットボール部関係資料」として一群で整理・保管し、利用に供していきます。

また、大学文書館1階の展示ホールの常設展示「北大生の群像——北大150年の主人公たち」の一部をリニューアルし、9月28日（土）開催のホームカミングデーから公開しました。リニューアルでは、バスケットボール部参加の大会プログラム（1976年）もレプリカを作成して陳列しています。平日の開館時間（9:30～16:30）内で、ご覧いただけます。

(大学文書館)



スコアブック



大会プログラム



部報『わ』

■お知らせ

医療費通知事業の実施

国家公務員共済組合法附則第14条の3第1項に基づく国家公務員共済組合連合会の共同事業の一つとして、昭和56年度から実施している医療費の通知事業を今年も行うことになりました。

この通知事業は、組合員に対し医療費の額等を通知することにより、組合員等に健康に対する認識を深めていただき、ひいては、短期給付事業の健全な運営に資することを目的として、特定月における支払分について通知するものです。

実施内容は次のとおりです。

1 通知の対象

組合員及びその被扶養者に係る令和元年6月診療分の診療報酬明細書（レセプト）による医療費の額等です。

なお、共済組合の直営医療機関並びに契約医療機関に係る請求分、任意継続組合員、遠隔地被扶養者及び在外組合員に係る請求分、特定の診療部門に係る請求分は通知の対象から除外されます。

2 通知の内容

通知の内容は、受診者名、診療年月、診療日数、入院・通院・歯科・薬局の別、医療費の額及び病院名です。

3 通知票の組合員への配付

通知票の組合員への配付は、令和元年11月末日までに各部局等の共済事務担当係から行われる予定です。

（文部科学省共済組合北海道大学支部）

■ 博士学位記授与

本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士105人、及び本学に学位論文を提出して、その審査、試験等に合格した論文博士4人に対する学位記授与式を、9月25日（水）午前10時から学術交流会館第一会議室において挙行了しました。

式では笠原正典総長職務代理から各研究科等の総代へ学位記が手渡され、最後は北大交響楽団の弦楽四重奏による「都ぞ弥生」の演奏で締めくくられました。9月の被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

（学務部学務企画課）



学位記授与の様子

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（文学）	うめ き か よ 梅 木 佳 代	エゾオオカミをめぐる歴史と文化：日本における研究史およびオオカミ観形成過程の検討 主査：教授 佐々木 亨
	みや うち さ 希 宮 内 彩 希	植民地期朝鮮における「迷信」の問題の研究 主査：教授 権 錫永
	かわ さき しゅん 川 崎 俊	伊井直行論 主査：教授 押野 武志
	しら いし はる え 白 石 治 恵	NEGATIVE IDEALISM OF PERCY BYSSHE SHELLEY: HIS SELF-REVISIONISM TOWARD "THE TRIUMPH OF LIFE" (パーシー・ビッシュ・シェリーの否定的理想主義：「生の凱旋」に至る自己修正) 主査：教授 瀬名波 栄潤
博士（法学）	おか べ たか とし 岡 部 天 俊	複数人の事実的共働による身分犯の実現に関する理論 主査：教授 城下 裕二
博士（経営学）	おの であ み き こ 小野寺 美希子	看護師のプロフェッショナリズムとケアリング 主査：教授 岩田 智
博士（医学）	アササラー プラヨンラット	Study on selective use of proton therapy in primary liver cancers using Normal Tissue Complication Probability (NTCP) model (正常組織有害反応発生確率モデルを用いた肝臓がん患者に対する陽子線治療の選択的適用に関する研究) 主査：教授 大場 雄介
	その だ ひろし 園 田 博	一般成人における足関節上腕血圧比と慢性腎臓病発症に関する研究 主査：教授 荒戸 照世
	ネパール プラバ	Studies on the role of a mitochondrial protein GC1 in the regulation of Ras-PI3K signaling-mediated endocytosis (Ras-PI3Kシグナルを介したエンドサイトーシス制御機構におけるミトコンドリアタンパク質GC1の役割に関する研究) 主査：教授 佐邊 壽孝

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（医学）	マホモド カミス マホモド アリ		Structural Analysis of Nuclear Stress Bodies Formed in Response to Thermal Stress （熱ストレスに応答した核内ストレス体の構造解析） 主査：教授 畠山 鎮次
	リュウ 劉 ヤノ 野		Development of novel therapeutic agents for refractory sight-threatening ocular diseases （難治性眼疾患に対する新規治療法の開発） 主査：教授 神谷 温之
博士（獣医学）	アレックス サモエル Alex Samuel キアリアエ ガイトマ Kiarie Gaithuma		Application of metagenomic approaches in the comprehensive detection and characterization of trypanosomes, microbiome and blood meal sources in tsetse flies （メタゲノム的手法を用いたツェツェバエ内トリパノソーマ原虫，細菌叢，および吸血源の包括的解析） 主査：准教授 山岸 潤也
	アン カナー Angkhana ダーム リム Dermlim		Assessment of left atrial function via strain analysis derived from two-dimensional speckle tracking echocardiography in dogs （2Dスペックルトラッキング心エコー図法によるストレイン解析を用いた犬の左心房機能の評価） 主査：教授 滝口 満喜
	タッサポン Tussapon ブンヤラッタナソント Boonyarattanasoonthorn		Profiling of cellular immune responses to <i>Mycoplasma pulmonis</i> infection in C57BL/6 and DBA/2 mice （C57BL/6マウスとDBA/2マウスにおける <i>Mycoplasma pulmonis</i> 感染に対する細胞免疫反応のプロファイリング） 主査：教授 安居院 高志
	バラプワドゥジ Balapuwaduge チャリサ ガヤスリ Charitha Gayathri メンディス Mendis		Molecular characterization of <i>Mycobacterium tuberculosis</i> isolates from pulmonary tuberculosis patients in Sri Lanka （スリランカにおいて肺結核患者より分離された結核菌株の分子疫学的解析） 主査：教授 鈴木 定彦
	ロン マニヤー Rommaneeyya リー ラ アーポーン Leela-arporn		The study on diagnosis and clinical aspects of focal liver lesions in dogs （犬の肝局所性病変の診断ならびに臨床的研究） 主査：教授 滝口 満喜
	ワン 王 ジン 金 シ 曦		Genetic analysis of phenotypes caused by deficiency in the development of neural crest-derived cells in the rat （ラットにおける神経堤細胞由来細胞の発達の欠陥によりもたらされる表現型の遺伝学的解析） 主査：教授 安居院 高志
博士（情報科学）	の 野 ぐち 口 わたる 渉		Development of Spatial Cognition through Visuomotor Integration in Hierarchical Recurrent Neural Networks （階層型リカレントニューラルネットワークを用いた視覚・運動統合による空間認知の発達） 主査：教授 山本 雅人
博士（工学）	チェン 陳 ハン 杭		Study on effects of electric field on optical electron-spin injection into InGaAs quantum dots （InGaAs量子ドットへの光学的電子スピン注入に対する電場の効果に関する研究） 主査：教授 植村 哲也
博士（情報科学）	さわ だ かず あき 澤 田 和 明		マウス中枢神経系回路の可視化を目指した新規レーザー蛍光顕微鏡法に関する研究 主査：教授 根本 知己
	ふじ 藤 い 井 ゆう 裕 き 紀		原子間力顕微鏡を用いた多細胞系の力学物性に関する研究 主査：教授 岡嶋 孝治
	やま ぐち まさ ひろ 山 口 征 浩		Study on Effects of Small FOV Telescope Environment in Virtual Reality Headset （バーチャルリアリティヘッドセットを用いた視野角縮小による仮想望遠環境の影響に関する研究） 主査：教授 荒木 健治
	シュウ 周 ブン 文 シュン 俊		Co-occurrence Pixel-Block Background Model and its Application to Robust Event Detection （共起ピクセルブロック背景モデルとそのロバストイベント検出への応用） 主査：教授 金子 俊一

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（情報科学）	ヤン 梁 ジュ ソン 宰 誠	Massive Object Transportation by Robots (ロボットによる重量物搬送) 主査：教授 近野 敦
博士（水産科学）	ク ウ ティ Khuu Thi フ ン ド ン Phuong Dong	Towards implementation of traceability for shrimp supply chain in Vietnam: economic analysis and global trade potential consideration (ベトナムにおけるエビ供給連鎖へのトレーサビリティ導入に向けて：経済分析と国際的貿易潜在力の考察) 主査：教授 高津 哲也
	たか はし たかし 高 橋 草	日本海富山湾とその周辺海域における浮遊性小型カイアシ類ノープリウス幼生に関する生物学および生態学的研究 主査：教授 高津 哲也
	レ ディ ヤヌ イカ Ledhyane Ika ハル リヤン Harlyan	Purse seine fishery management in Malaysia: an output control for sustainable fisheries (マレーシアにおけるまき網漁業管理：持続可能な漁業のための産出量規制) 主査：教授 高津 哲也
	モウ ダイ イ 孟 大 威	Studies on the efficient utilization of bester sturgeon by-products (ベステルチョウザメ由来廃棄物の有効利用) 主査：教授 足立 伸次
	よし おか きた し 吉 岡 智 史	卵黄のこくに寄与する脂質成分の探索と簡易分離方法の検討 主査：教授 細川 雅史
博士（環境科学）	ふく だ よういちろう 福 田 陽一朗	地理空間モデルを用いた地域バイオマスエネルギー利用システムの評価 主査：准教授 藤井 賢彦
	ヒ ュー イ ヴォーグ HUYNH VUONG スー ミン THU MINH	Assessing the effects of dike protection systems on rice cropping patterns and water quality in An Giang province, Vietnam (ベトナム, An Giang省における稲作パターンと水質に対する堤防保護システムの影響の評価) 主査：准教授 藏崎 正明
	ル ソン 芦 松	Application of TOT and BPCA methods to the reconstruction of past biomass burning from sediment archives (熱光透過法およびベンゼンポリカルボン酸法を応用した堆積物記録からの過去のバイオマス燃焼復元) 主査：教授 杉本 敦子
	ふな かわ ひろ や 船 川 寛 矢	Studies on improvement of tolerance to boron deficiency and toxicity in plants (植物におけるホウ素欠乏・過剰耐性付与の研究) 主査：准教授 三輪 京子
	おお く ぼ ゆう たく 大久保 祐 作	On the phylogenetic comparative analysis of directional evolution by Approximate Bayesian Computation (近似ベイズ計算を用いた方向性進化の分析について) 主査：准教授 小泉 逸郎
	おお つき ま ゆ こ 大 槻 真友子	Development of non-invasive techniques to measure testosterone in the northern fur seal (<i>Callorhinus ursinus</i>) (キタオットセイにおけるテストステロンの非侵襲的な測定手法の開発) 主査：准教授 三谷 曜子
	やま ざき はるか 山 崎 遥	重機を用いた天然更新補助作業における表層土壌残存が実生の初期定着に及ぼす影響 主査：教授 吉田 俊也
	ス ラ ジ ュ カ ー SURAJ KAR	Chilling tolerance and biomass production of <i>Saccharum</i> × <i>Miscanthus</i> intergeneric hybrids (miscanes) in cool climatic conditions of northern Japan (北日本の冷帯気候条件でのサトウキビ属×ススキ属の属間雑種（ミスケーン）の低温耐性とバイオマス生産) 主査：教授 荒木 肇

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（環境科学）	たか はま まさ よし 高 濱 雅 幹	Studies on the year-round production and quality improvement of baby-leaf vegetables (ベビーリーフの周年生産と品質改善に関する研究) 主査：教授 荒木 肇
	ラファエル RAFAEL アレキサンダレ ALEXANDRE ムチャング MUCHANGA	Studies on fresh-market tomato production in a plastic high tunnel in low-input alternative systems using cover crops and livestock compost (緑肥と家畜堆肥を活用した低投入システムによるプラスチックハウス内での生食トマト生産に関する研究) 主査：教授 荒木 肇
	エムディ ジャヒドゥル MD. JAHIDUL イスラム ISLAM	Spatially- and temporally- controlled synthesis and modification of lead halide perovskites by laser trapping (レーザー捕捉によるハロゲン化鉛ペロブスカイトの合成と変換の時空間制御) 主査：教授 Biju Vasudevan Pillai
博士（理学）	アルベール ALBERT ロドリゲス ムレー RODRIGUEZ MULET	Asymptotic analysis of bending, torsional and stretching eigenfrequencies of thin elastic rods (細長い弾性体 における, 曲げ・捩れ・伸び縮みモードの固有振動数の漸近挙動) 主査：教授 神保 秀一
	グオ ウェイ リー 郭 威 力	On the Falk invariant of an arrangement (超平面配置のFalk不変量) 主査：教授 吉永 正彦
	イルワン ラムリ Irwan Ramli	The muon-spin resonance (μ SR) and density functional theory (DFT) study of $\text{YBa}_2\text{Cu}_3\text{O}_6$ ($\text{YBa}_2\text{Cu}_3\text{O}_6$ のミュオンスピン緩和法 (μ SR) および密度汎関数法 (DFT) による研究) 主査：客員教授 渡邊 功雄
	ジュリア エンジェル Julia Angel	Muon-Spin Relaxation Study of Ir-Spin Fluctuations in Hole-Doped Pyrochlore Iridates ($\text{Y}_{1-x}\text{Cu}_x\text{Ca}_y\text{Ir}_2\text{O}_7$) (正孔ドーブしたパイロクロア型イリジウム酸化物 ($\text{Y}_{1-x}\text{Cu}_x\text{Ca}_y\text{Ir}_2\text{O}_7$)におけるIrスピン揺らぎのミュオンスピン緩和法による研究) 主査：客員教授 渡邊 功雄
	ドアン タン アン DOAN Tung Anh	Microstructured Resonant Infrared Absorbers and Emitters for Spectroscopic Sensing and Thermal Heating Applications (分光型熱ふく射センシングと加熱のための共鳴型マイクロ赤外吸収素子の研究) 主査：客員教授 長尾 忠昭
	マンブリート カウアー Manpreet KAUR	Plasmonic-Dielectric Hybrid Composite Structure for Solar Energy Harvesting and Water Purification (セラミック系プラズモン材料と誘電体との複合化による水浄化を目指した太陽光利用の研究) 主査：客員教授 長尾 忠昭
	まつ だ のぞみ 松 田 望	Heterogeneity of oxygen isotopes and chemical compositions in a chondrule rim from carbonaceous chondrite (炭素質コンドライト中のコンドリュールリムにおける酸素同位体と化学組成の不均一) 主査：教授 塚本 尚義
博士（農学）	グエン チ NGUYEN THI チュイ ハン THUY HANG	Linkage between Farm and Non-farm Sectors and its Impact on Agricultural Production: Evidence from Vietnam (農業と非農業セクター間の連関とその農業生産へのインパクト：ベトナムにおける実証) 主査：教授 近藤 巧
	コウ 高 ウ 高 宇	Functional analysis of maltose phosphorylase MalE from <i>Bacillus</i> sp. AHU2001 and synthesis of oligosaccharides and sugar phosphates with the enzyme (<i>Bacillus</i> sp. AHU 2001由来マルトースホスホリラーゼ MalEの機能 ならびに 本酵素を用いたオリゴ糖および糖リン酸の合成に関する研究) 主査：教授 森 春英
	なか むら まさ し 中 村 正 士	先進農家の自主的研究会活動による農協営農指導再編に関する研究－北海道を対象として－ 主査：特任教授 坂下 明彦

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（農学）	フレッディ FREDDY	Modernization of Vegetable Supply Chain and Farmers` Organization: A Case Study of West Java, Indonesia, Focusing on Behavior of Leaders (野菜サプライチェーンの近代化と農民組織—インドネシア・西ジャワにおけるリーダーの行動に注目した事例研究—) 主査：教授 柳村 俊介
	イ 李 ドン グン 李 東 根	Prevention of fatty liver by dietary intervention via regulation of 12 α -hydroxylated bile acid metabolism: Studies on oligosaccharide and dairy products in rats (食餌による12 α 水酸化胆汁酸代謝の調節を介する脂肪肝の予防：オリゴ糖および乳製品を用いたラットにおける研究) 主査：教授 石塚 敏
	リファ アトゥニサ Rifa' atunnisa	Characterization of arbuscular mycorrhizal fungal communities with respect to soil disturbance in a volcanic ecosystem (土壌攪乱に着目した火山生態系におけるアーバスキュラー菌根菌群集の特徴付け) 主査：准教授 江澤 辰広
	イ ウ エ カ IWEKA パトリシア ン ネ カ Patricia Nneka	Development of near-infrared spectroscopic sensing system for online real-time monitoring of milk quality during milking (搾乳時乳質のオンラインリアルタイム評価のための近赤外分光センシングシステムの開発) 主査：准教授 小関 成樹
	エムディ モ モ タ ズ MD. MOMOTAZ アリ ALI	Surface modification of synthetic polymer sheet by direct electrospinning of cellulose acetate (セルロースアセテートの直接電界紡糸による合成高分子シートの表面改質) 主査：教授 浦木 康光
	オウ ホウ 王 昊	Development of Robot Vehicles Adaptable to Changing Ground Conditions and Their Work Management System (路面環境に適応可能なロボット車両群とその作業管理システムの開発) 主査：教授 野口 伸
博士（生命科学）	チン リョウ 陳 亮	Facile Synthesis of Novel Elastomers with Tunable Dynamics for Toughness, Self-healing and Adhesion (高分子ダイナミックスの制御による高靱性、自己修復性および接着性を有する新規エラストマーの合成) 主査：教授 龔 劍萍
	ノ ウ シ ャ バ NOUSHABA ヌスラット マフィー NUSRAT MAFY	Driving and Regulation of Macroscopic Motile Functions in Artificial and Living Systems by Molecular Photoswitches (光分子スイッチによる人工系および生体系での巨視的運動機能の駆動と制御) 主査：教授 玉置 信之
	ム ハ マ ド Muhamad アクマル オスマン Aqmal Othman	Discovery of Natural Sphingomyelin Synthase Inhibitors against High Fat Diet-Induced Obesity and its Lipid Metabolism in Mice (マウスにおける高脂肪食誘発肥満に対する天然スフィンゴミエリン合成酵素阻害剤の発見とその脂質代謝) 主査：教授 門出 健次
	ユルゲン Jurgen テオドシオ サネス Teodosio Sanes	Deciphering biological significance of dynamic glycosylation on glycan variants by mass spectrometry (質量分析法による動的で多様な糖鎖修飾の生物学的機能解明) 主査：教授 西村 紳一郎
博士（薬科学）	コ アン キ 胡 安 琪	Mechanism of altered cleavage of substrates by γ -secretase including presenilin without pathogenic gene mutations (遺伝子変異に依存しない γ -セクレターゼによる基質の切断変化機構の解明) 主査：特任教授 鈴木 利治

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（薬科学）	シ ョ バ キ SHOBAKI, ヌ レ エー ケー NOUR, A. K.	Targeting macrophages in the tumor-microenvironment to enhance their anti-tumorous functions by gene silencing using optimized siRNA-loaded lipid nanoparticles (siRNA搭載脂質ナノ粒子を用いた遺伝子抑制によるがん微小環境中におけるマクロファージの抗腫瘍性強化) 主査：教授 原島 秀吉
	チェン 陳 エン 彦 チョウ 洲	Studies on Palladium-Catalyzed Reactions of Functionalized 2-Bromo-1, 3-dienes (官能基化2-ブロモ-1, 3-ジエン類のパラジウム触媒反応に関する研究) 主査：特任教授 高橋 保
	ム フ バ MWABA, ム ウ イ ラ ヒ ル ト ン MWILA, HILTON	Inhibiting Canine Distemper Virus infection by generating monoclonal antibodies targeting Hemagglutinin Protein (ヘマグルチニンタンパク質を標的としたモノクローナル抗体による犬ジステンパーウイルスの感染阻害) 主査：教授 前仲 勝実
博士（臨床薬学）	いし かわ しゅう へい 石 川 修 平	クロザピン誘発性流涎症のリスク因子の解明と治療法の探索 主査：教授 井関 健
	ひ 樋 ぐち いっ せい 樋 口 一 世	2型糖尿病病態と血漿乳酸・アラニン値との関連性 主査：教授 井関 健
	ます だ ひで ゆき 増 田 秀 幸	BCG菌体成分搭載脂質ナノ粒子を基盤としたがん免疫療法の構築 主査：准教授 山田 勇磨
博士（教育学）	みず の くん べい 水 野 君 平	中学生の仲間集団間の社会的地位と学校適応における関連性の検討―「スクールカースト」という現象に注目して 主査：准教授 加藤 弘通
博士（国際広報メディア）	オウ 王 セン 瞻	大気汚染を通してみる中国近代化の「圧縮性」：リスクをめぐる規制と分配を中心に 主査：教授 長島 美織
博士（保健科学）	うお ずみ りょう 魚 住 諒	免疫グロブリン製剤が好中球細胞外トラップ形成および抗好中球細胞質抗体関連血管炎発症に及ぼす影響 主査：教授 山口 博之
	カク 郝 メイ 明	Obesity in elementary school children in Northeast China: affecting factors, the effect of intervention, and the impact of body image on weight reduction (中国東北部における小学生の肥満について―影響因子・介入効果・ボディイメージの体重減少に対する影響―) 主査：教授 小笠原 克彦
	は せ がわ じゅん こ 長谷川 純 子	Effect of seasonal variation on physical activity and frailty among community dwelling elderly living in snowy cold regions (積雪寒冷地に居住する高齢者における身体活動量とフレイルに対する季節変動の影響) 主査：教授 浅賀 忠義
博士（工学）	ズー シレイ ZHU Shilei	Micro and Nano Scale Structure Design of Sn-Based Phase Change Materials for Thermal Energy Storage (熱エネルギー貯蔵のためのSn系相変化材料のマイクロおよびナノスケール構造設計) 主査：教授 米澤 徹
	デ ン リャンリャン DENG Lianlian	Sputter deposition and formation mechanism of Pt and Pt alloy nanoparticles (スパッタリング法によるPtとPt系二元金属ナノ粒子生成と形成メカニズムの研究) 主査：教授 米澤 徹
	ムハンマド Md. サイフル イスラム Saiful ISLAM	Effects of Metal Cations on Steels Corrosion in Chloride Aqueous Solution (塩化物水溶液中の鋼の腐食に及ぼす金属カチオンの影響) 主査：准教授 坂入 正敏
	リ 李 チュン ヒョン 李 忠 賢	Improvement on Hydrogen Storage Property of Ammonia Borane System and Aluminum Hydride System (アンモニアボラン系および水素化アルミニウム系材料の水素貯蔵特性改善に関する研究) 主査：准教授 磯部 繁人

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（工学）	グオ 郭	Flammability study on electrolyte components in lithium-ion batteries using a wick combustion method (灯芯燃焼法を用いたリチウムイオン電池用電解液成分の燃焼性に関する研究) 主査：教授 藤田 修
	ケン ブス KAMPS ランドン ト マ ス Landon Thomas	Mechanisms of Graphite Nozzle Erosion in Hybrid Rockets (ハイブリッドロケットにおける黒鉛ノズル浸食機構の解明) 主査：教授 永田 晴紀
	ワ ン スー Wang Su	Lidar-based Localization and Pose Estimation Approaches in the Map Built by Monocular SLAM (単眼カメラSLAMによる地図におけるLidarに基づく自己位置と姿勢の推定) 主査：教授 小林 幸徳
	いな ば かず き 稲 葉 一 輝	部分予混合化ディーゼル燃焼の特性改善に関する研究 主査：教授 小川 英之
	ジャカ ラチマデチン Jaka Rachmadetin	Study on the calcium carbonate precipitation and anion diffusion in compacted bentonite for performance assessment of engineered barrier in the geological disposal (地層処分における人工バリア材の性能評価のための圧縮ベントナイト中のカルサイトの析出および陰イオンの拡散に関する研究) 主査：教授 小崎 完
	なか むら たか ひさ 中 村 貴 久	バラスト軌道の地震時座屈安定性の評価に関する研究 主査：教授 石川 達也
	ラ 羅	Proposal of a constitutive model for the behavior of unsaturated soils subjected to freeze-thaw action (凍結融解作用を受ける不飽和土の挙動解析に対する構成モデルの提案) 主査：教授 石川 達也
	モ ハ マ ド MUHAMMAD ア ボ バ カル ABOUBAKAR ファルーク FAROOQ	Compressive Mechanical Models of High Strength Mortar and Concrete under Severe Environmental Action (過酷環境下における高強度コンクリートおよびモルタルの圧縮応力場における力学モデルの構築) 主査：教授 横田 弘
	ワ ン ザ オ WANG Zhao	Multi-scale Structural Evaluation Method of Reinforced Concrete Member under the Effect of Frost Damage (凍害を受けた鉄筋コンクリート部材のマルチスケール構造性能評価法) 主査：特任教授 上田 多門
	ドー ティン ユイ Do Thinh Duy	Environment Behavior Design for Improving the Urban Street Space in Vietnam Metropolitan Area with Rapid Urbanization (急速な都市化が進むベトナム都市圏における街路空間の改善に関する環境行動デザイン研究) 主査：教授 森 傑
	みや うち たかし 宮 内 孝	集約型都市構造に向けた都市政策立案のための定量評価手法の構築 主査：教授 瀬戸口 剛
	わ け とも たか 和 氣 知 貴	熱力学特性を改善した鉛プラグ入り積層ゴム免震支承の開発 主査：教授 菊地 優
	うお ずみ まき ひろ 魚 住 昌 広	建築設備のコミッショニングに基づく消費エネルギー削減手法に関する研究 主査：教授 羽山 広文
	おお はら しん 大 原 信	社会インフラの健全性に対する海塩粒子の影響評価—送電設備における塩雪害・大気腐食— 主査：准教授 村尾 直人
	ティロスサマ ヒランヤ Thiloththama Hiranya クマリ ナワラスナ Kumari Nawarathna	Effect of biomacromolecules on calcium carbonate formation and sand solidification induced by urease-based mineralization (ウレアーゼを用いた炭酸カルシウム形成および砂質材料の固化における生体高分子の影響) 主査：准教授 中島 一紀

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名	
	氏 名		
博士（工学）	ティールユット Theerayut フエングサート Phengsaart	Advanced jig separation for resources recycling: effects of particle geometry on separation efficiency and development of continuous-type jig using restraining wall （リサイクリングのためのアドバンスドジグ選別：選別に及ぼす粒子形状の影響とRestraining wallを用いた連続式ジグの開発） 主査：准教授 伊藤 真由美	
	ウィルソン ムワンディラ Wilson Mwandira	Development of bioremediation methods for soil and water contaminated with heavy metals in Kabwe mine （Kabwe鉱山において重金属により汚染された土壌および水に対するバイオレメディエーション法の開発） 主査：准教授 中島 一紀	
	リ シン ロン Li Xinlong	Effects of Ferric Ions on Carrier-microencapsulation for Suppressing Pyrite Oxidation （黄鉄鉱酸化抑制のためのキャリアマイクロエンカプセレーションに及ぼす第二鉄イオンの影響） 主査：教授 廣吉 直樹	
博士（総合化学）	ド ニー ス グ ラ ハ DONNY NUGRAHA マザ フ リ ア ン ト MAZAAFRIANTO	Development of Microdevice-Based Aptamer Sensors for Mycotoxin Analysis （マイコトキシン分析のためのマイクロデバイスベースのアプタマーセンサーの開発） 主査：教授 佐藤 敏文	
博士（理学）	そ り だ ま さ と 反 田 真 登	Study on Functions of the Heterochromatin Factor Epe1 to Regulate Epigenetic Diversification （エピジェネティックな多様化を制御するヘテロクロマチン因子Epe1の機能に関する研究） 主査：教授 坂口 和靖	
	ソン 宋	ファイ 輝	Solar Energy Mediated Methane Conversion over Nanometals/Semiconductors Catalysts （太陽光エネルギーを利用したナノ金属／半導体触媒によるメタン転換反応に関する研究） 主査：教授 村越 敬
	チェン 陳	ジエ 潔	High-Pressure Synthesis, Crystal Structures and Physical Properties of Perovskite-Related Mercury and Osmium Oxides （ペロブスカイトに関連する水銀およびオスミウム酸化物の高圧合成と結晶構造と物性） 主査：特任教授 武田 定
	サ エ ダ ル バ イ ヤ Syeda Rubaiya ナスリン Nasrin	<i>In Vitro</i> Study of Microtubule Deformation by External Stimuli and its Effect on the Interaction between Microtubule and Microtubule-Associated Motor Proteins （外部刺激による微小管の変形とその変形が微小管関連タンパク質との相互作用に及ぼす効果に関する研究） 主査：教授 坂口 和靖	
	にし たに ゆう だい 西 谷 雄 大	Study on Functional Regulation of Iron Regulatory Proteins Mediated by Heme Binding to Heme Regulatory Motifs （ヘム制御モチーフへのヘム結合を介した鉄制御蛋白質IRPsの機能制御に関する研究） 主査：教授 村上 洋太	
博士（工学）	ガ サ マー Kasama ウ ア ガ セー ム URKASAME	Development of Monoliths with Introduced Straight Microchannels for Applications in Continuous Wastewater Treatment （直状マイクロ流路を導入したモノリス体の開発と連続式廃水処理への応用） 主査：教授 増田 隆夫	
	キム 金	チュオン 清	Preparation of Nitrogen-doped Hierarchically Porous Carbon for Electrochemical Energy Storage and Conversion （電気化学的エネルギー貯蔵と変換に資する窒素ドーブ階層型多孔質炭素の作製） 主査：教授 向井 紳
	フウ 馮	ジャク 若	イン 茵

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（工学）	シャーマン Sharmin スルタナ ポリ Sultana Poly	Heterogeneous Catalysis for the Synthesis of Chemicals using Dehydrogenation/ Hydrogenation Properties of Metal Nanoparticles and Hydrophobicity of Acidic Zeolites （金属ナノ粒子の脱水素化／水素化特性と酸性ゼオライトの疎水性を利用した化学品合成のため の不均一触媒作用） 主査：教授 長谷川 淳也
	エムディー Md. ナーノビー ラシェッド Nurnobi Rashed	Transformations of Carboxylic Acids Derivatives using Heterogenous Acid-Base Catalysts （不均一系酸-塩基触媒を用いたカルボン酸誘導体の変換） 主査：教授 長谷川 淳也

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（医学）	すずき ひろなお 鈴木 宏 尚	RNAスプライシング分子Rbm10の炎症回路活性化制御機構に関する研究 主査：教授 廣瀬 哲郎
博士（薬科学）	ありぎ ゆうこ 有 座 夕 子	自己免疫疾患におけるBTK阻害剤チラブルチニブの薬理学的作用の研究 主査：教授 松田 正
博士（ソフトマター科学）	なか の まなぶ 中 野 学	Study on the Effect of Lactoferrin and Lactoperoxidase on Oral Health and Its Mechanisms （ラクトフェリンおよびラクトパーオキシダーゼの口腔衛生に対する効果とその作用機序に関 する研究） 主査：教授 相沢 智康
博士（工学）	き やま たもつ 木 山 保	超臨界CO ₂ の圧入に伴う石炭の力学的挙動に関する基礎的研究 主査：教授 藤井 義明

■レクリエーション

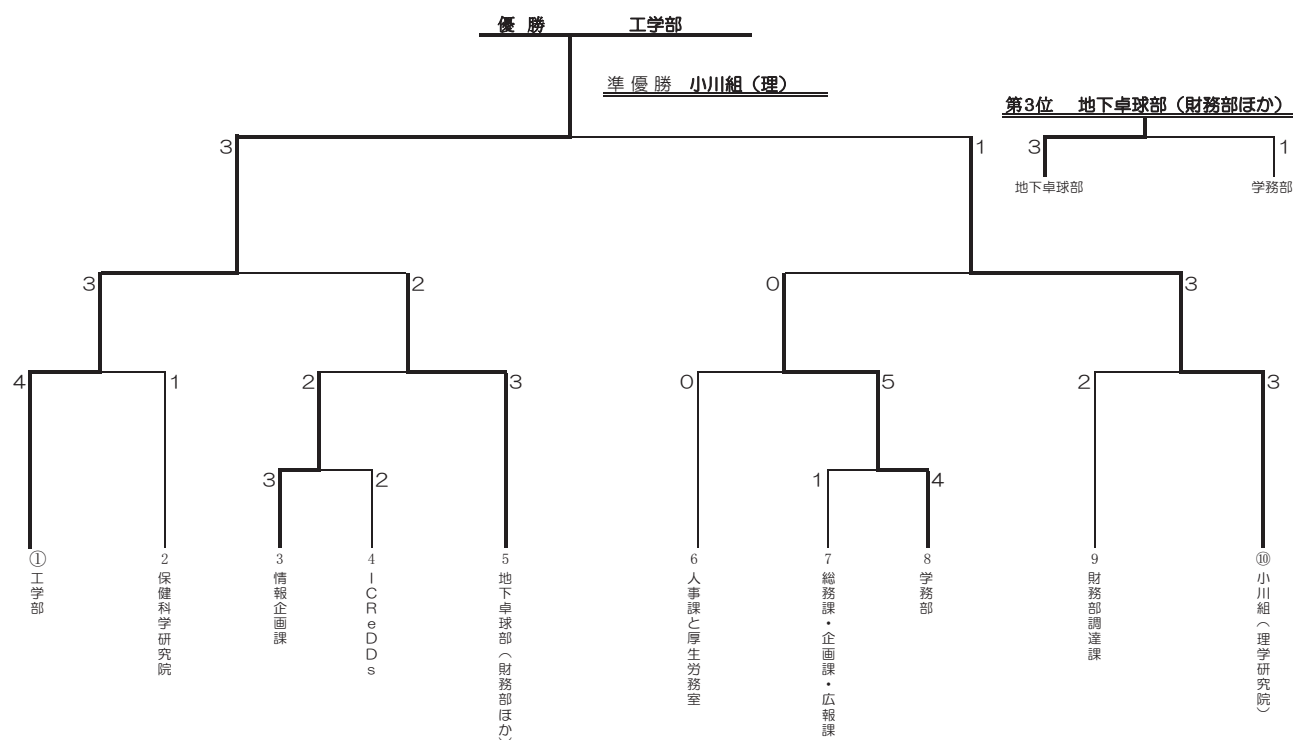
学内教職員卓球大会の開催 ー団体戦ー

9月2日（月）から5日（木）にかけて、学内教職員卓球大会を小体育館で開催しました。
団体戦に10チーム92名が参加し、声援のなか熱戦が繰り広げられました。
なお、対戦結果は以下のとおりです。

（職員卓球部）

令和元年度 北大教職員卓球大会 （団体戦）

9月2日（月）～9月5日（木）



大会風景



団体戦優勝 工学部

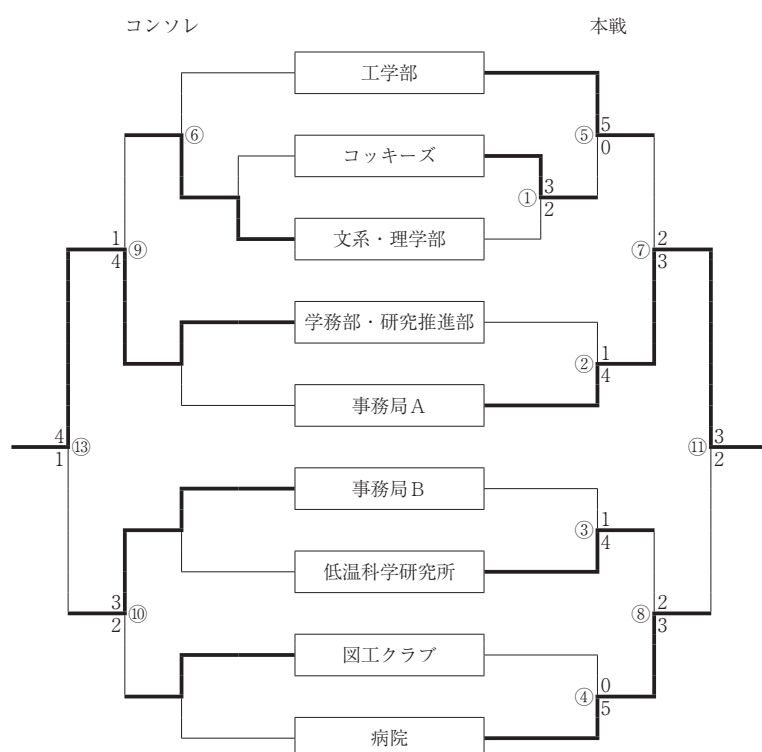
教職員テニス大会の開催

9月7日（土），工学部・農学部・学務部・低温科学研究所の各コートで職員硬式庭球同好会主催により，部局対抗戦を開催しました。

9チーム・計82名が参加し，結果は次のとおりです。

（職員硬式庭球同好会）

令和元年度 学内部局対抗戦 結果



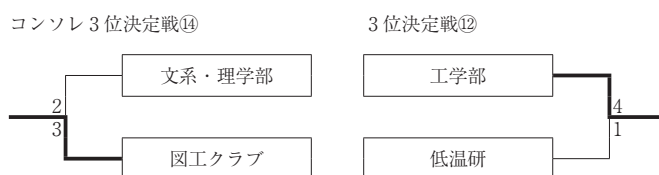
優勝：事務局Aチーム



準優勝：病院チーム



3位：工学部チーム



本戦	優勝	事務局A
	準優勝	病院
	3位	工学部

コンソレ	優勝	学務部・研究推進部
	準優勝	事務局B
	3位	図工クラブ



コンソレ優勝：学務部・研究推進部チーム

■ 諸会議の開催状況

役員会（令和元年 9 月 9 日）

議 案・役員兼業（技術移転，研究成果活用，監査役）に係る審査体制の見直しについて

- ・就業規則関連規程の一部改正について
- ・災害時における物資の供給等に関する協定（案）について
- ・教職員・学生等の相談体制の強化について

協議事項・Integrated Science Programに係る奨学制度の継続について

- ・個人情報管理委員会の設置について
- ・北海道大学情報セキュリティ基本計画の改定について
- ・諸規則の制定について

報告事項・教育関係共同利用拠点の認定について

- ・「北海道大学緑のビアガーデン2019」及び「北海道大学緑のジンギスカンWine&Beer2019」の実施報告について
 - ・令和元年度オープンキャンパス及び北海道大学進学相談会（東京会場）開催結果について
 - ・令和元年人事院給与勧告について
 - ・令和元年度運営費交付金における評価結果について
 - ・令和2年度（2020年度）概算要求（財務省要求）について
 - ・令和2年度（2020年度）概算要求の重点支援にかかる評価指標の進捗状況について
-

教育研究評議会（令和元年 9 月18日）

議 題・経営協議会の学外委員について

- ・Integrated Science Programに係る奨学制度の継続について
- ・個人情報管理委員会の設置について
- ・北海道大学情報セキュリティ基本計画の改定について
- ・諸規則の制定について

報告事項・教育関係共同利用拠点の認定について

- ・「北海道大学緑のビアガーデン2019」及び「北海道大学緑のジンギスカンWine&Beer2019」の実施報告について
 - ・寄附講座等の更新及び廃止について
 - ・産業創出講座等の設置について
 - ・令和元年度運営費交付金における評価結果について
 - ・令和2年度（2020年度）概算要求（財務省要求）について
 - ・令和2年度（2020年度）概算要求の重点支援にかかる評価指標の進捗状況について
-

役員会（令和元年 9 月26日）

議 案・Integrated Science Programに係る奨学制度の継続について

- ・個人情報管理委員会の設置について
- ・北海道大学情報セキュリティ基本計画の改定について
- ・諸規則の制定について
- ・クロスアポイントメントの適用について

報告事項・障害者の雇用状況等について

- ・令和元年度部局評価配分事業（客観・共通指標等への対応）について
 - ・平成30事業年度財務諸表の承認について
-

※規程の制定，改廃については，「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

北海道大学における講座等に関する規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第166号)

令和元年10月1日付けで、大学院工学研究院に置く分野の廃止を行うことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第167号)

本学の創成研究機構グローバルファシリティセンターにおいて、材料分析及び加工に使用する設備を追加すること並びに令和元年10月1日付けで消費税及び地方消費税の税率が引き上げられることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学情報公開・個人情報保護審査委員会規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第168号)

国立大学法人北海道大学における独立行政法人等非識別加工情報の提供等に関する規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第189号)

令和元年10月1日付けで、本学に個人情報管理委員会を設置することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学臨床研究審査委員会規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第169号)

北海道大学学生寮規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第172号)

国立大学法人北海道大学共同研究取扱規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第173号)

北海道大学病理解剖受託規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第174号)

北海道大学病的材料検査に関する規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第175号)

北海道大学受託研究員規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第176号)

北海道大学私学研修員等受入れ規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第177号)

北海道大学外国人受託研修員規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第178号)

北海道大学病院受託実習生受入れ規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第179号)

北海道大学病院研修生受入れ規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第180号)

北海道大学研修登録医受入れ規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第181号)

国立大学法人北海道大学インターナショナルハウス使用料等規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第191号)

国立大学法人北海道大学外国人研究者及び外国人留学生借上宿舍等規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第192号)

国立大学法人北海道大学ナノテクノロジープラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第196号)

北海道大学病院諸料金規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第199号)

北海道大学水産学部附属練習船利用規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第200号)

北海道大学大学院医学研究院死亡時画像診断受託規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第201号)

北海道大学総合博物館施設利用規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第202号)

令和元年10月1日付けで消費税及び地方消費税の税率が引き上げられることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学における共同プロジェクト拠点の認定等に関する規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第170号)

共同プロジェクト拠点の認定手続を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学インテグレイテッドサイエンスプログラム規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第171号)

北海道大学インテグレイテッドサイエンスプログラム運営委員会委員の任期の始期を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員休職規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第182号)

研究成果活用企業の役員（監査役を除く。）、顧問又は評議員の職を兼ねる場合の審査体制を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員兼業規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第183号)

国立大学法人北海道大学利益相反マネジメント規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第185号)

技術移転事業者の役員（監査役を除く。）、顧問若しくは評議員の職を兼ねる場合、研究成果活用企業の役員（監査役を除く。）、顧問若しくは評議員の職を兼ねる場合又は株式会社若しくは有限会社の監査役を兼ねる場合の審査体制を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学兼業審査会規程を廃止する規程

(令和元年10月1日海大達第184号)

本年10月1日付けで、本学の兼業審査会を廃止することに伴い、所要の定めを行ったものです。

国立大学法人北海道大学遺伝子組換え実験等安全管理規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第186号)

「研究段階におけるゲノム編集技術の利用により得られた生物の使用等に係る留意事項について（令和元年6月13日元受文科振第100号）」を受け、本学におけるゲノム編集技術の利用により得られた生物の取扱いを改めることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学個人情報管理規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第187号)

本学に、保有個人情報等の管理に係る重要事項の決定、連絡、調整等を行うため、個人情報管理委員会を置くことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学個人情報管理委員会規程

(令和元年10月1日海大達第188号)

国立大学法人北海道大学個人情報管理規程第6条第2項に基づき、本学に置く個人情報管理委員会の組織及び運営について、所要の定めを行ったものです。

北海道大学における聴講生等の検定料等の額に関する規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第190号)

令和元年度第2学期から現代日本学プログラム課程の予備課程として日本語研修コースに入学する者に係る日本語研修コースの授業料を徴収することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第193号)

令和元年10月1日付けで子ども・子育て支援法の一部を改正する法律(令和元年法律第7号)が施行されること及び3歳以上の子どもに係る主食の提供に係る費用を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第194号)

本学のオープンファシリティについて、設備を追加すること並びに令和元年10月1日付けで消費税及び地方消費税の税率が引き上げられることに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学原子・分子の顕微イメージングプラットフォーム事業による設備利用規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第195号)

本学の原子・分子の顕微イメージングプラットフォーム事業に基づく設備の利用者の範囲を見直すこと並びに令和元年10月1日付けで消費税及び地方消費税の税率が引き上げられることに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学大学連携研究設備ネットワーク設備利用規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第197号)

本学が大学連携研究設備ネットワークにより相互利用に供する設備の一部を廃止すること並びに令和元年10月1日付けで消費税及び地方消費税の税率が引き上げられることに伴い、所要の改正を行ったものです。

北海道大学理学部規程の一部を改正する規程

(令和元年10月1日海大達第198号)

本学理学部において、より適切な教育効果を得るために教育課程の整備充実を図ることに伴い、所要の改正を行ったものです。

■ 研修

研修名：令和元年度北海道地区国立大学法人等中堅技術職員研修

開催期間：令和元年 9 月10日～12日

開催場所：工学部フロンティア応用科学研究棟

研修目的：北海道地区国立大学法人等の中堅技術職員として、現在の立場と責務を自覚させるとともに、職務遂行に必要な知識や社会的識見等を深め、国立大学法人等の技術系業務における中核となるべき職員として、その資質向上を図ることを目的とする。



開講式挨拶
(五十嵐敏文技術支援本部副本部長(工学研究院教授))



講義「ハラスメント防止研修」
(佐藤直弘ハラスメント相談室専門相談員)



講義「情報セキュリティ」
(片桐弘之情報環境推進本部特定専門職)



講義・グループワーク(株式会社アムリプラザ)

(技術支援本部)

■表敬訪問

海外

年月日	来 訪 者	来 訪 目 的
1.9.6	Einar Gunnarsson 北極評議会高級北極実務者会合議長	両国の交流に関する懇談
1.9.13	駐日ハンガリー共和国大使館 Hortenzia Hosszú 科学技術担当参事官	両国の交流に関する懇談
1.9.16	ハロン大学（ベトナム）Tran Trung Vy 副学長	両大学の交流に関する懇談
1.9.26	在ザンビア日本国大使館 水内龍太 特命全権大使	両国の交流に関する懇談



Einar Gunnarsson 北極評議会高級北極実務者会合議長（中央）



駐日ハンガリー共和国大使館 Hortenzia Hosszú 科学技術担当参事官（中央）



ハロン大学（ベトナム）Tran Trung Vy 副学長（左から4番目）



在ザンビア日本国大使館 水内龍太 特命全権大使(中央)

（国際部国際連携課）

人事

令和元年9月18日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【経営協議会委員】 （期間：令和3年9月17日まで）	安 藤 保 彦	北海道経済産業局長

令和元年10月1日付発令

新 職 名（発令事項）	氏 名	旧 職 名（現職名）
【部局長・施設長等】 大学院地球環境科学研究院院長 大学院環境科学院長 （期間：令和3年9月30日まで） 電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター長 （期間：令和3年9月30日まで）	大 原 雅 松 尾 保 孝	大学院地球環境科学研究院教授 電子科学研究所教授
【副研究科長・副研究院長等】 大学院地球環境科学研究院副研究院長 （期間：令和3年9月30日まで）	小 西 克 明	大学院地球環境科学研究院教授
【教授】 大学院地球環境科学研究院教授 大学院農学研究院教授 大学院教育学研究院教授 大学院経済学研究院教授	相 場 慎一郎 澁 谷 正 人 近 藤 健一郎 韓 載 香	鹿児島大学学術研究院理工学域理学系准教授 大学院農学研究院准教授 大学院教育学研究院准教授 大学院経済学研究院准教授

部局長等（再任）紹介

令和元年10月1日付

地球環境科学研究院長・環境科学院長に

おおはら まさし
大原 雅 教授

大原 雅教授は、平成29年10月1日から大学院地球環境科学研究院長・環境科学院長を務め、令和元年9月30日をもって任期満了となりましたが、引き続き同教授が再任されました。

任期は、令和3年9月30日までです。

新任部局長等紹介

令和元年10月1日付

電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター長に



まつ お やすたか
松尾 保孝 教授

令和元年9月30日限りで玉置信之電子科学研究所附属グリーンナノテクノロジー研究センター長が任期満了となり、その後任として松尾保孝教授が発令されました。

任期は、令和3年9月30日までです。

略 歴

生 年 月 日 昭和47年2月2日
平成6年3月 大阪大学工学部卒業
平成8年3月 大阪大学大学院工学研究科修士課程修了
平成13年3月 北海道大学大学院工学研究科博士後期課程単位取得退学
平成13年12月 博士（工学）（北海道大学）
平成16年8月 北海道大学電子科学研究所助手
平成19年4月 北海道大学電子科学研究所助教
平成22年1月 北海道大学電子科学研究所附属ナノテクノロジー研究センター准教授
平成30年4月 北海道大学電子科学研究所教授

新任教授紹介

令和元年10月1日付



地球環境科学研究院教授に

あい ば しん いちろう
相場 慎一郎 氏

環境生物科学部門陸域生態学分野

生年月日 昭和44年9月26日
最終学歴 北海道大学大学院地球環境科学研究科博士後期課程早期修了（平成9年12月）
博士（地球環境科学）（北海道大学）
専門分野 植物生態学・森林生態学



農学研究院教授に

しぶ や まさと
澁谷 正人 氏

基盤研究部門森林科学分野

生年月日 昭和34年5月24日
最終学歴 北海道大学大学院農学研究科修士課程修了（昭和60年3月）
博士（農学）（北海道大学）
専門分野 林学



教育学研究院教授に

こんどう けんいちろう
近藤 健一郎 氏

教育学部門教育基礎論分野

生年月日 昭和42年7月4日

最終学歴 北海道大学大学院教育学研究科教育学専攻博士後期課程修了(平成8年9月)
博士(教育学)(北海道大学)

専門分野 学校史



経済学研究院教授に

はん じゃひやん
韓 載香 氏

現代経済経営部門社会経済・歴史分析分野

生年月日 昭和46年1月8日

最終学歴 東京大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学(平成16年3月)
博士(経済学)(東京大学)

専門分野 日本現代経済史・産業史

訃報

名誉教授 岡島 秀夫 氏
(享年95歳)



名誉教授 岡島秀夫先生（元農学部
長）が、令和元年8月31日にご逝去
されました。

先生は、大正13年2月22日に北海道
にお生まれになり、昭和22年9月に北
海道帝国大学農学部農芸化学科を卒業
された後、同年6月に厚生省東京衛生
試験所助手に採用され、同年12月に同
試験所厚生技官を経て、昭和24年5月
に東北大学農学研究所助手に転任し、
昭和30年3月に講師に昇任され、昭和
43年4月に北海道大学農学部助教授に
転任され、昭和45年4月に教授に昇任

され、農芸化学科土壌学講座を担当さ
れました。昭和56年8月から昭和58年
4月まで北海道大学評議員、昭和58年
4月から昭和62年3月まで北海道大学
農学部長を務められ、昭和62年3月に
停年により退職され、北海道大学名誉
教授の称号を授与されました。その後
平成元年4月から平成9年3月まで道
都大学短期大学部学長を務められまし
た。

先生は、まず戦後のわが国の稲作の
生産性向上のために稲の栄養生理学的
研究を進められました。低位生産性水
田は還元状態になりやすく、そのため
に発生する硫化水素により根の養水分
吸収が阻害されますが、その程度が稲
の栄養状態により大きく変わり、十分
な肥培管理を行うと、稲の根の酸化力
が強まり硫化水素発生を抑制し、生産
性が向上することを発見されました。
この研究に対して昭和36年3月に北海
道大学から農学博士の学位を授与され
るとともに、昭和39年4月に日本土壌

肥料学会賞を受賞されました。さらに
植物生育が根群土壌の養水分環境に大
きな影響をうけることに注目され、土
壌からの養分供給のメカニズムを解析
され、従来の容量因子である土壌固相
と、強度因子である土壌溶液の關係に
加えて、土壌溶液から根への養分の移
動が速度因子として重要であることを
指摘されました。さらに、高度成長期
における過剰施肥の問題に直面してか
らは、生産性の維持と環境の保全のた
めの「土壌診断、作物栄養診断による
適正な施肥法」の開発に尽力され、今
日の環境保全型農業の基礎を作られま
した。

先生の長年にわたるご功績に敬意を
表し、多大な貢献に感謝申し上げ、こ
こに謹んでご冥福をお祈り申し上げま
す。

（農学院・農学研究院・農学部）

編集メモ

● 9月28日（土）に開催したホームカミングデーでは、多くの同窓生の皆様をお迎えすることができました。次回は令和2年9月26日（土）の開催を予定しています。

● 9月末に、四季折々の本学の様子を紹介する本学公式PVとして、「北大夏景色」を公開いたしました。「冬景色」「春景色」に続く今回は、札幌キャンパスの緑豊かな風景に加え、静内研究牧場で生き生きと走る馬や、函館キャンパス水産学部附属練習船のうしお丸

やおしよろ丸の様子など、本学の様々な夏の景色を紹介しています。ぜひご覧ください。

<https://www.hokudai.ac.jp/movie/>





2017.10.24 室蘭本線 札文～大岸（豊浦町）

北の鉄道風景 79 秋の夕日に照るクルーズトレイン

観光目的に特化させた形態で運行される周遊型の寝台列車をクルーズトレインという。日本国内で現在、JR各社によって運行されているクルーズトレインは、JR九州の「ななつ星in九州」、JR西日本の「TWILIGHT EXPRESS 瑞風」、JR東日本の「カシオペアクルーズ」及び「TRAN SUITE 四季島」の4列車である。これらのうち、「TRAN SUITE 四季島」は4月中旬から11月下旬にかけての期間限定で、その周遊コースにJR北海道の一部路線が含まれる形

で運行されている。写真は秋の夕日を浴びながら、この日の終着である登別駅に向けて内浦湾の海辺を力走する「TRAN SUITE 四季島」である。この日は1時間超の遅延で通過した同列車。あと数分通過が遅れていたならば、撮影ポイントは山陰になってしまふところであった。

情報科学研究院 准教授 山本 学

北大時報 ⑩ No.787 令和元年10月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2610 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail: kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>